

秋田県沖合域の水溫状況 (平成24年4月)

漁業調査指導船「千秋丸」と沿岸調査船「第二千秋丸」が4月10～11日及び16日に行った水温の観測結果は、次のとおりです。

- 表 層(2ページ) 男鹿半島西方沖のSt. 5付近に、冷水域があります。
- 50 m層(3ページ) 男鹿半島西方沖のSt. 5付近に、冷水域があります。
- 100m層(4ページ) 男鹿半島西方沖のSt. 5付近に冷水域があります。一方、この沖合のSt. 6では「かなり高い」水温となっています。
- 200m層(5ページ) 能代市沖(St. 25)、男鹿半島西方沖(St. 1、2) 及びにかほ市沖(St. 12)で「かなり高い」水温となっています。

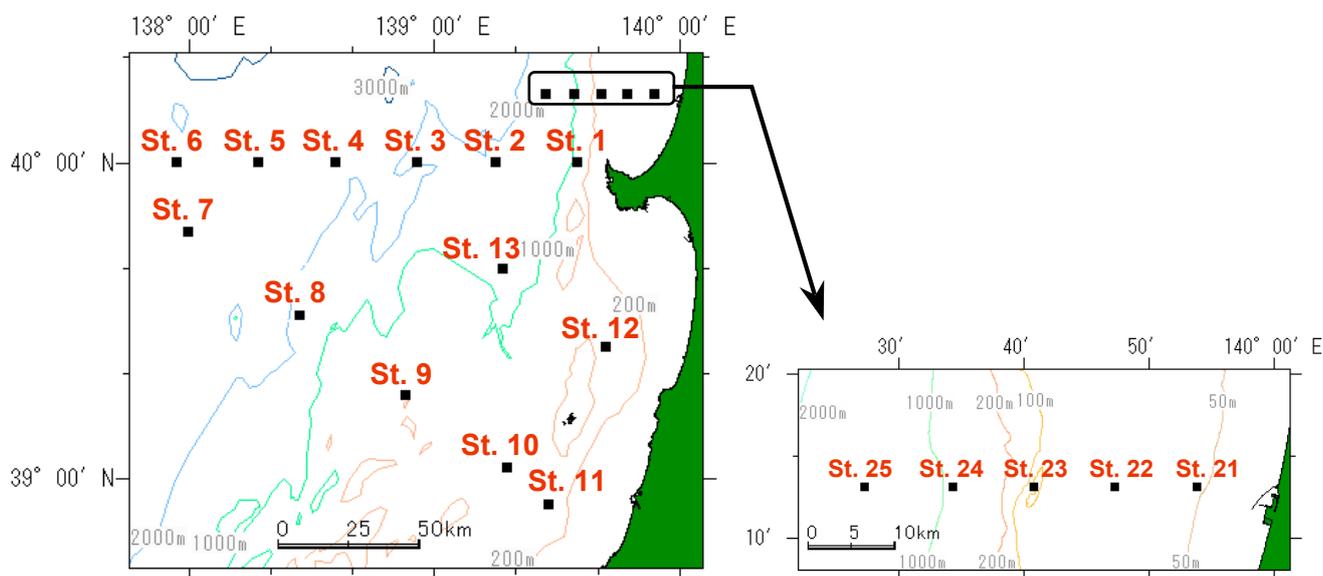


図1 調査船千秋丸及び第二千秋丸による観測定点(St. 1～13; 千秋丸、21～25; 第二千秋丸)

表1 水温の評価方法

評価	偏差*	
■ はなはだ高い	+200以上	(出現確率約20年以上に1回)
■ かなり高い	+131～200	(出現確率約10年に1回)
■ やや高い	+ 61～131	(出現確率約4年に1回)
■ 平年並み	± 60以内	(出現確率約2年に1回)
■ やや低い	- 61～131	(出現確率約4年に1回)
■ かなり低い	-131～200	(出現確率約10年に1回)
■ はなはだ低い	-200以下	(出現確率約20年以上に1回)

* 偏差=(今月の観測値-平年値)/標準偏差×100
平年値; St. 1～13は1971～2000年まで、21～25は1978～2000年までの平均値

<表層>

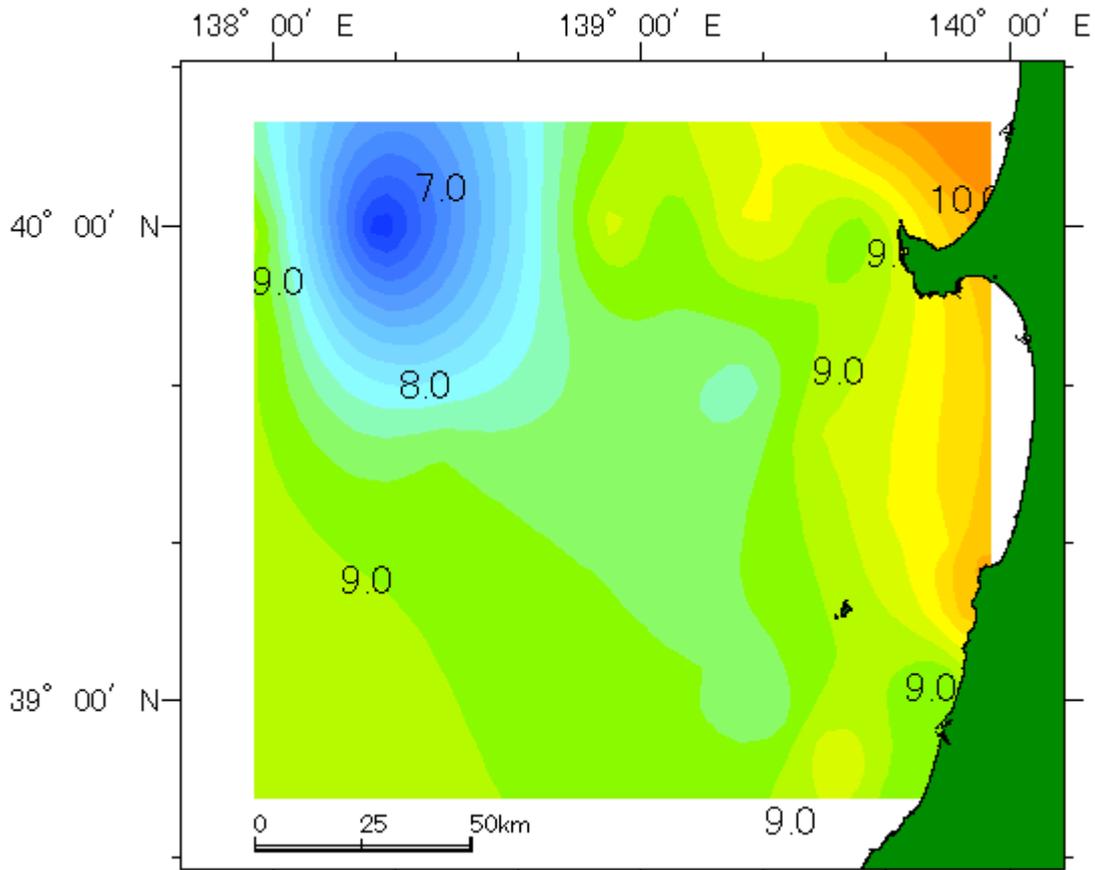


図2 表層の水温分布

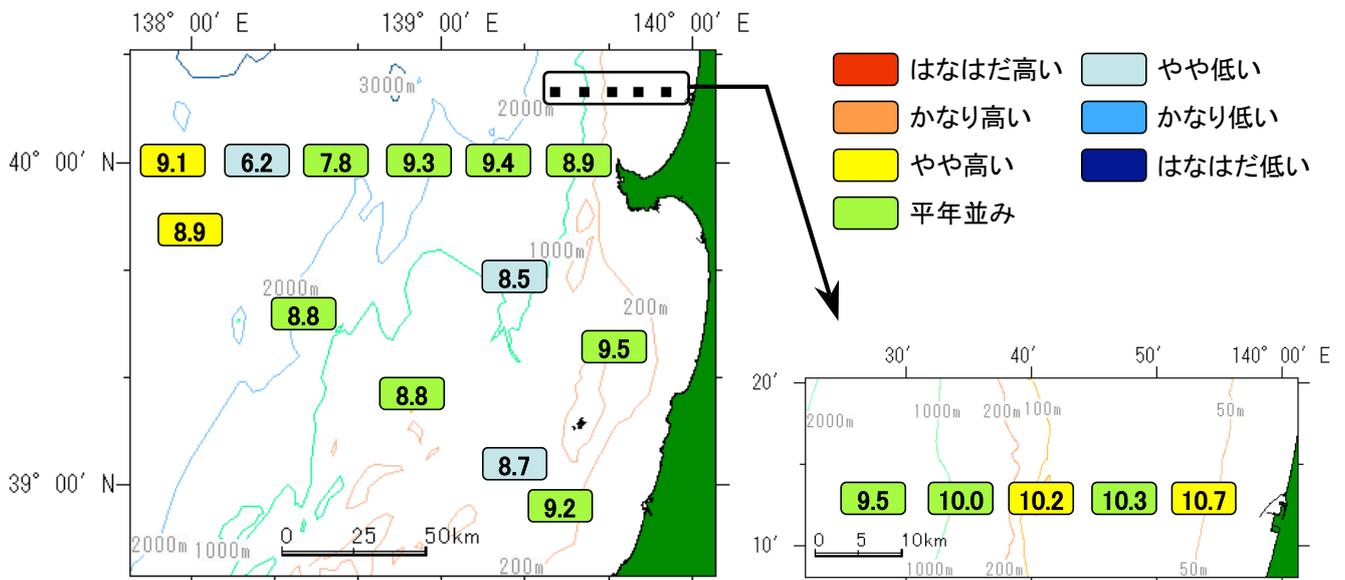


図3 表層における水温の評価と観測値(°C)

<50m層>

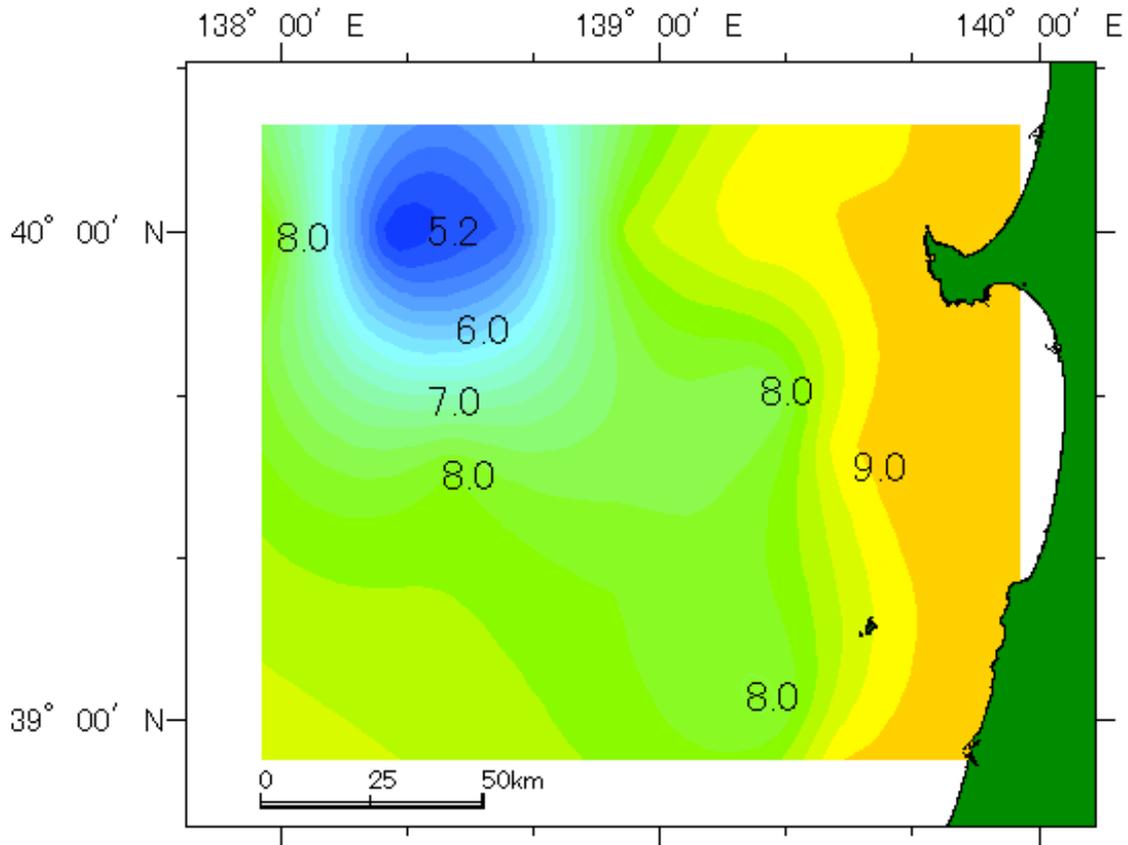


図4 水深50m層の水温分布

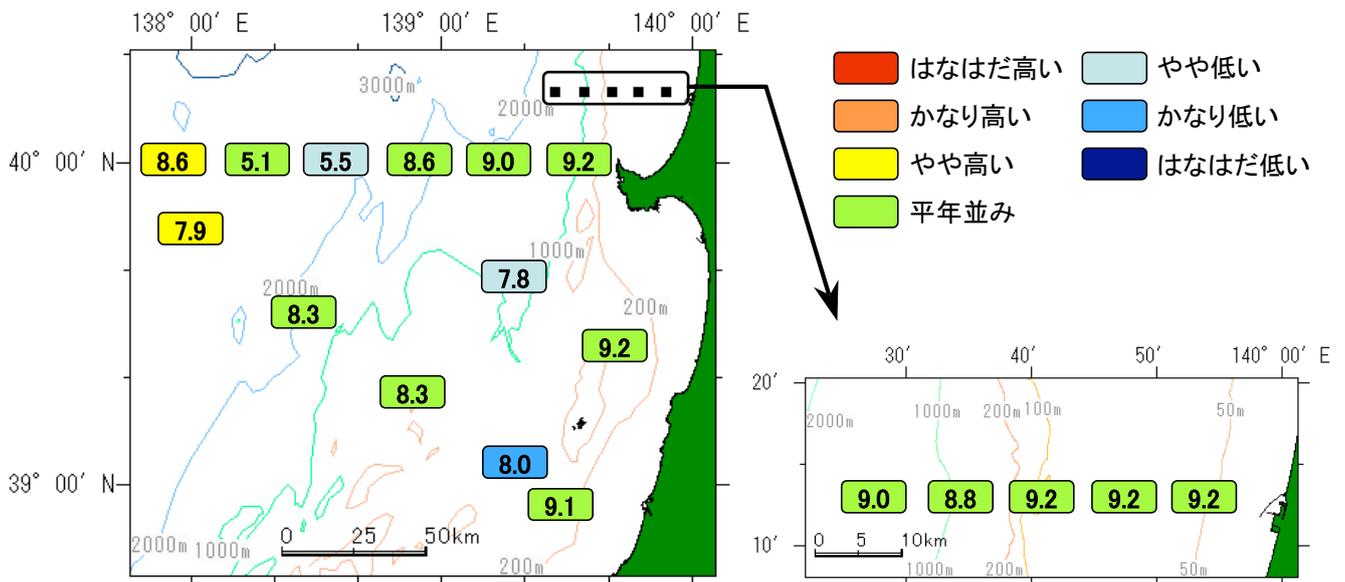


図5 水深50m層における水温の評価と観測値(°C)

<100m層>

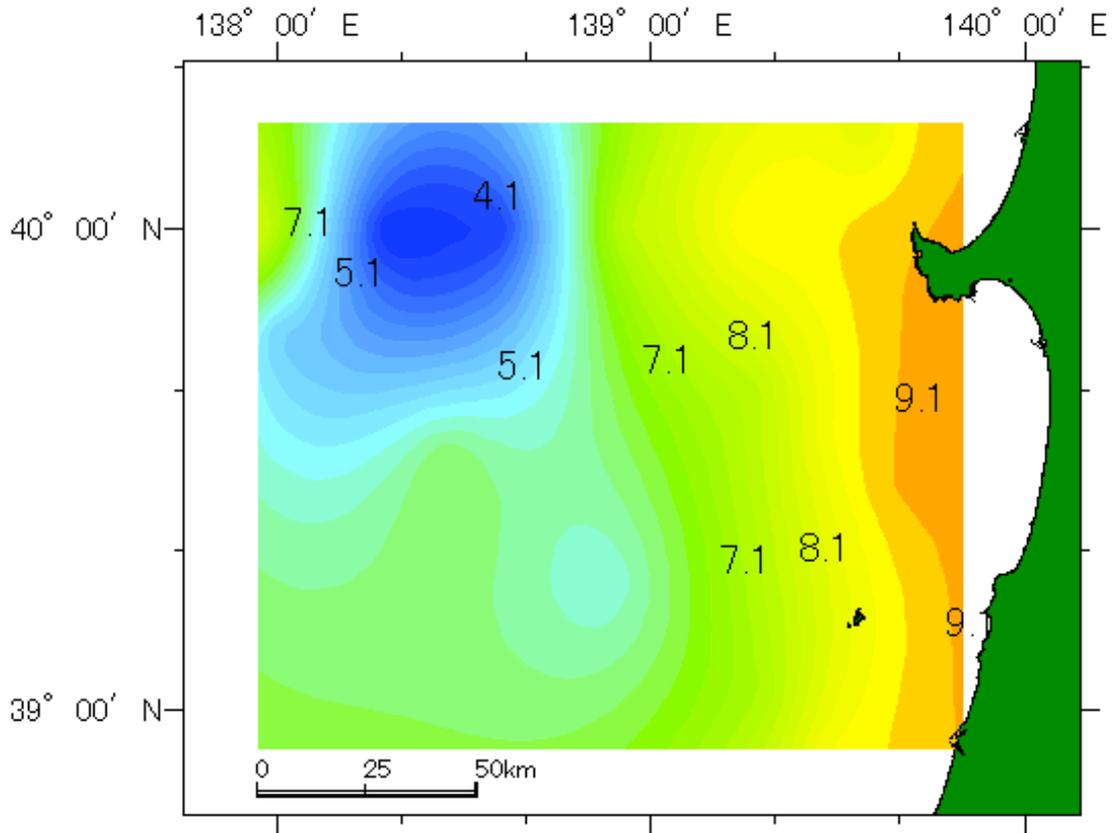


図6 水深100m層の水温分布

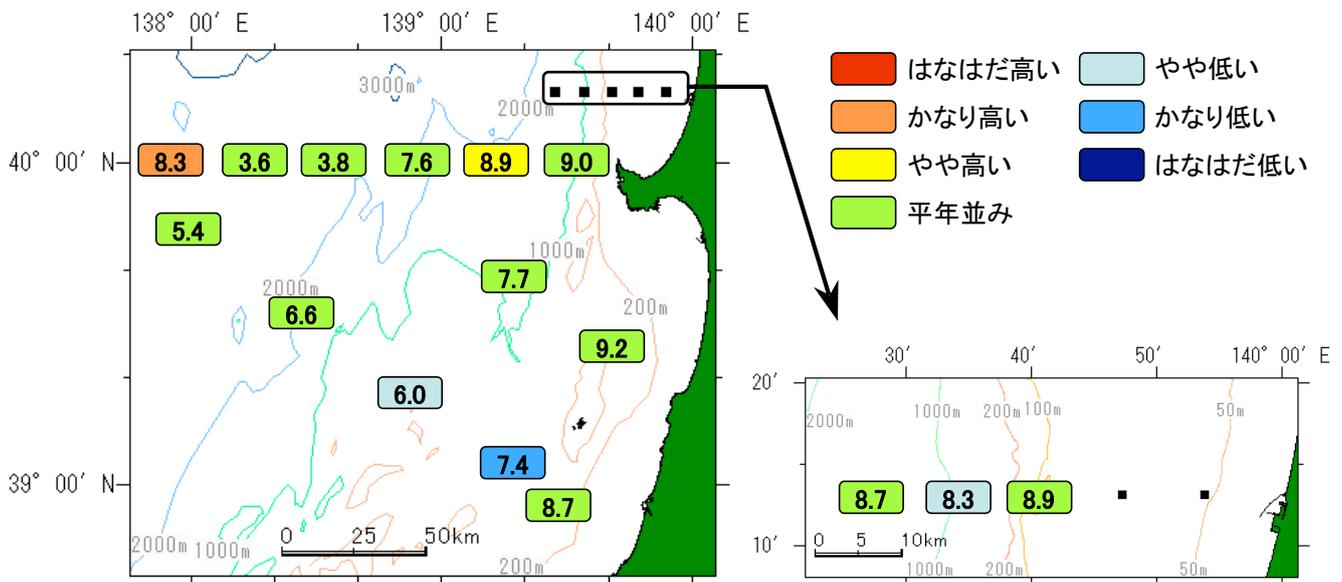


図7 水深100m層における水温の評価と観測値(°C)

<200m層>

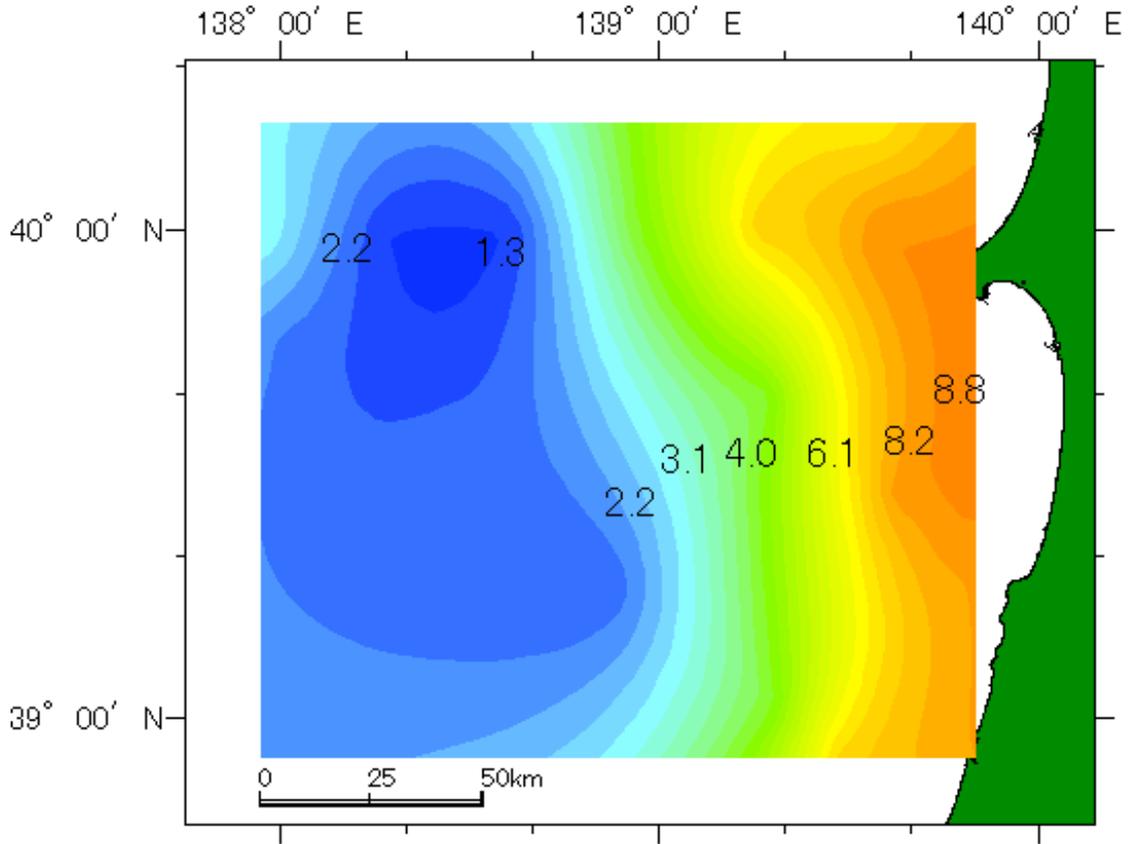


図8 水深200m層の水温分布

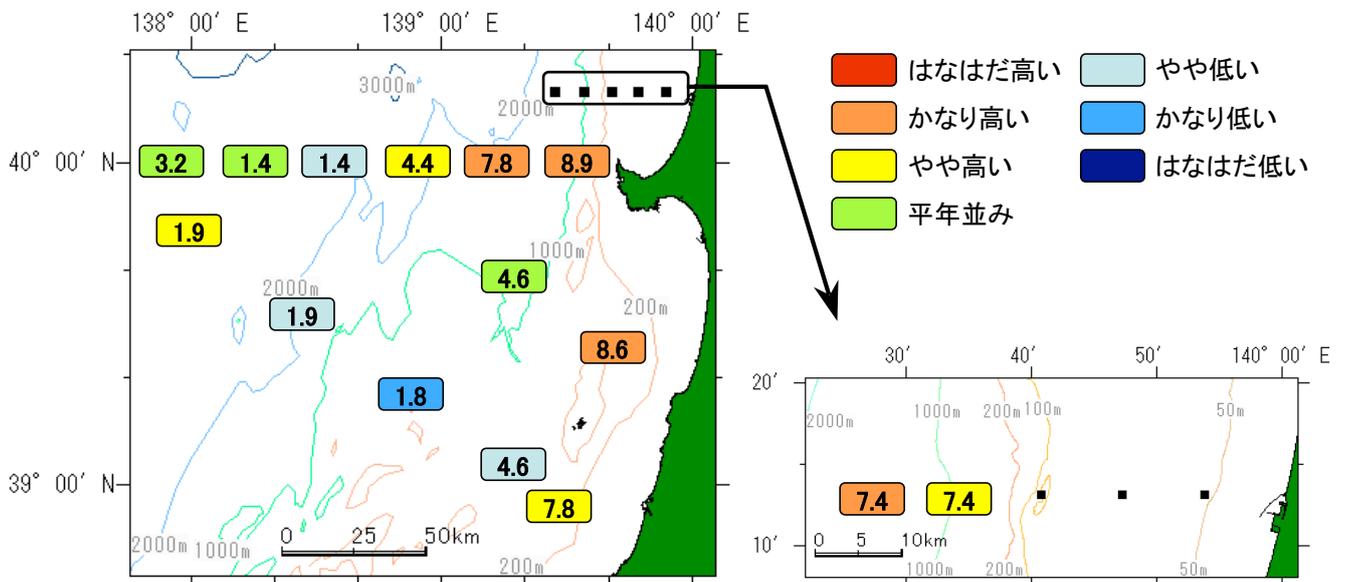


図9 水深200m層における水温の評価と観測値(°C)

秋田県沖合域の水温状況 (平成24年5月)

漁業調査指導船「千秋丸」と沿岸調査船「第二千秋丸」が5月8日、9日及び14日に行った水温の観測結果は、次のとおりです。

- 表層(2ページ)** 県北部を除く全ての定点で水温が平年値を1～3℃上回っており、「やや高い」～「はなはだ高い」水温です。
- 50m層(3ページ)** 男鹿半島西方のSt. 3付近に冷水域がみられます。一方、この沖合のSt. 5～8では「かなり高い」水温です。
- 100m層(4ページ)** 50m層と同様、男鹿半島西方のSt. 3付近に冷水域がみられます。一方、この沖合のSt. 5～8では「かなり高い」～「はなはだ高い」水温です。
- 200m層(5ページ)** 男鹿半島西方沖に冷水域が広く張り出しています。一方、この沖合のSt. 6～8では「かなり高い」～「はなはだ高い」水温です。

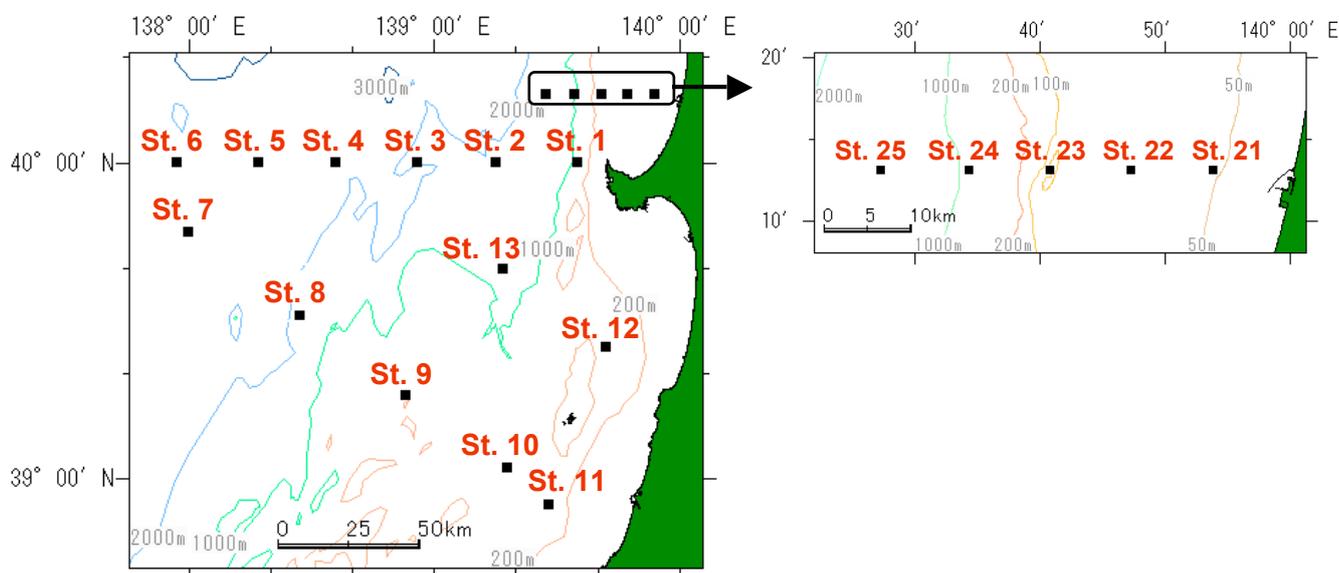


図1 調査船千秋丸及び第二千秋丸による観測定点(St. 1～13; 千秋丸、21～25; 第二千秋丸)

表1 水温の評価方法

評価	偏差*	
■ はなはだ高い	+200以上	(出現確率: 約20年以上に1回)
■ かなり高い	+131～200	(出現確率: 約10年に1回)
■ やや高い	+61～131	(出現確率: 約4年に1回)
■ 平年並み	±60以内	(出現確率: 約2年に1回)
■ やや低い	-61～131	(出現確率: 約4年に1回)
■ かなり低い	-131～200	(出現確率: 約10年に1回)
■ はなはだ低い	-200以下	(出現確率: 約20年以上に1回)

* 偏差=(今月の観測値-平年値)÷標準偏差×100

平年値: St. 1～13が1971～2000年まで、21～25が1978～2000年までの平均値

< 表層 >

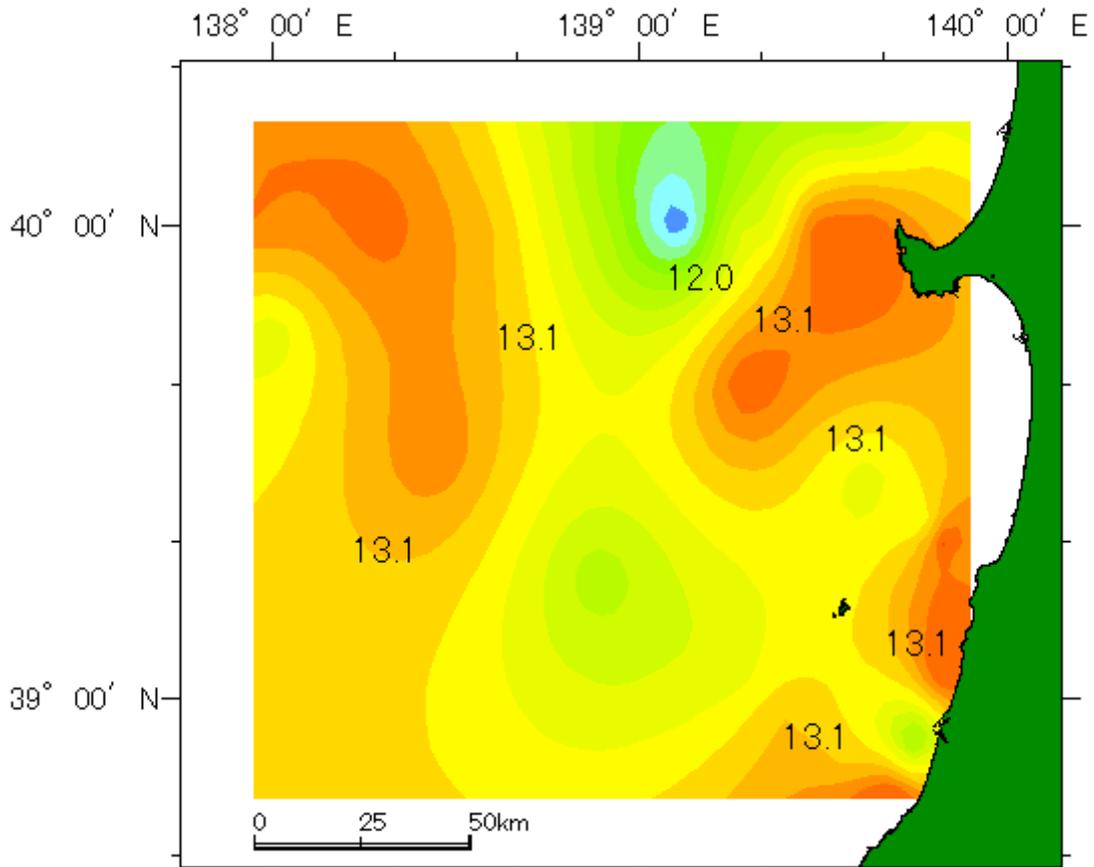


図2 表層の水溫分布

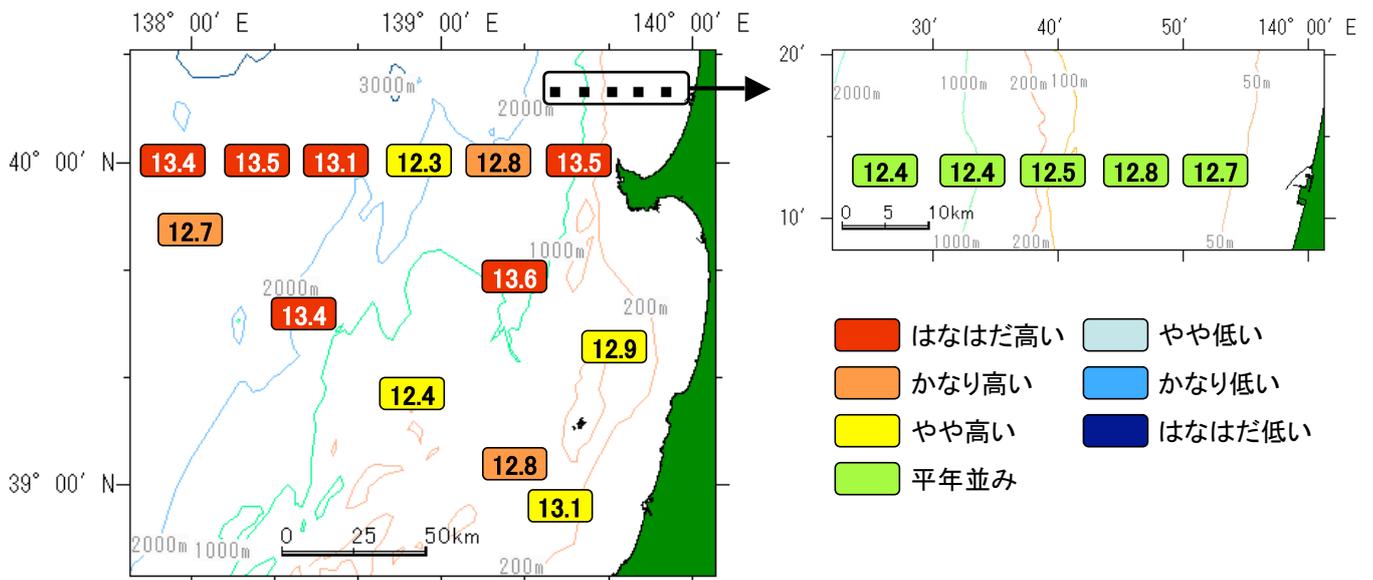


図3 表層における水溫の評価と観測値(°C)

<50m層>

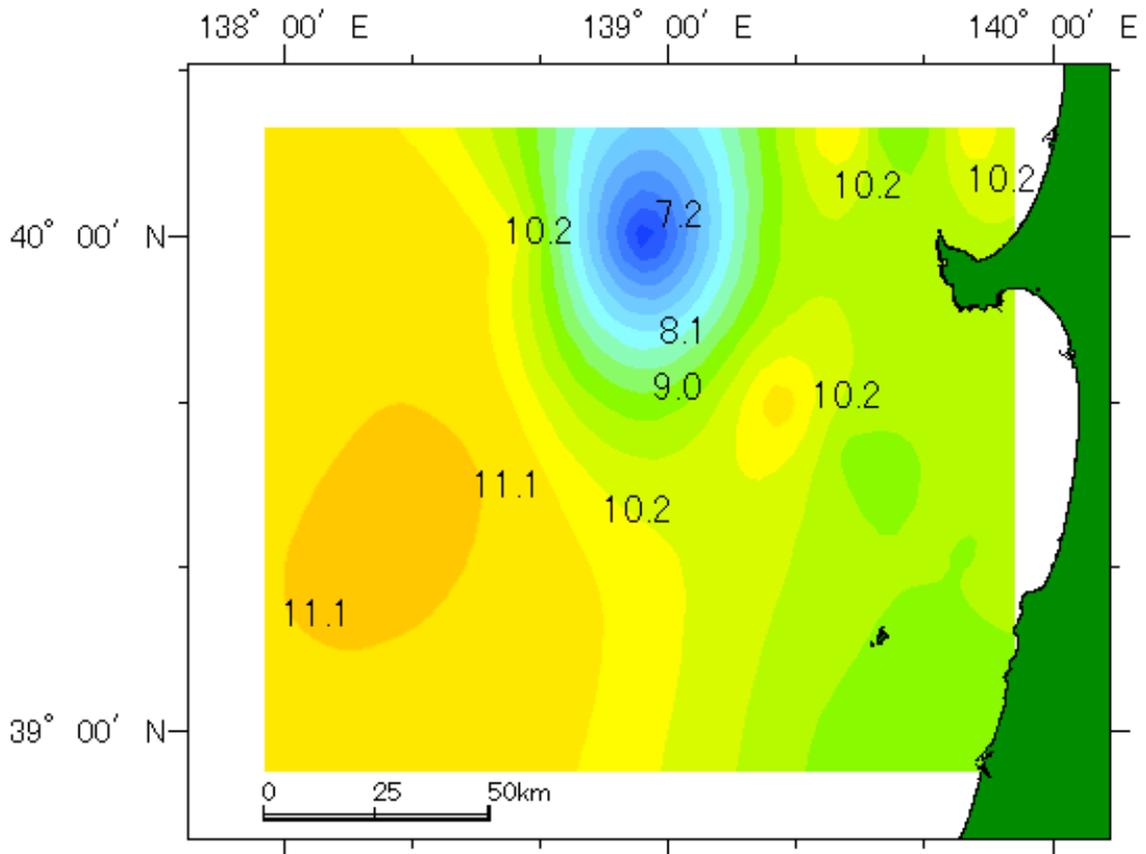


図4 水深50m層の水温分布

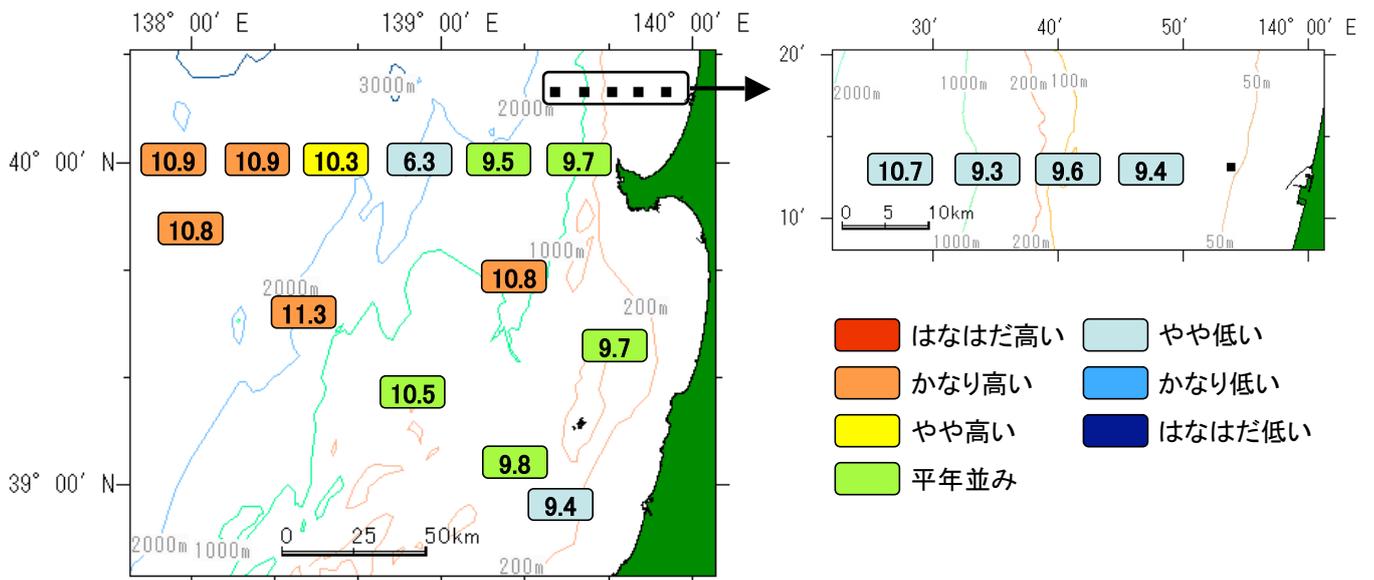


図5 水深50m層における水温の評価と観測値(°C)

<100m層>

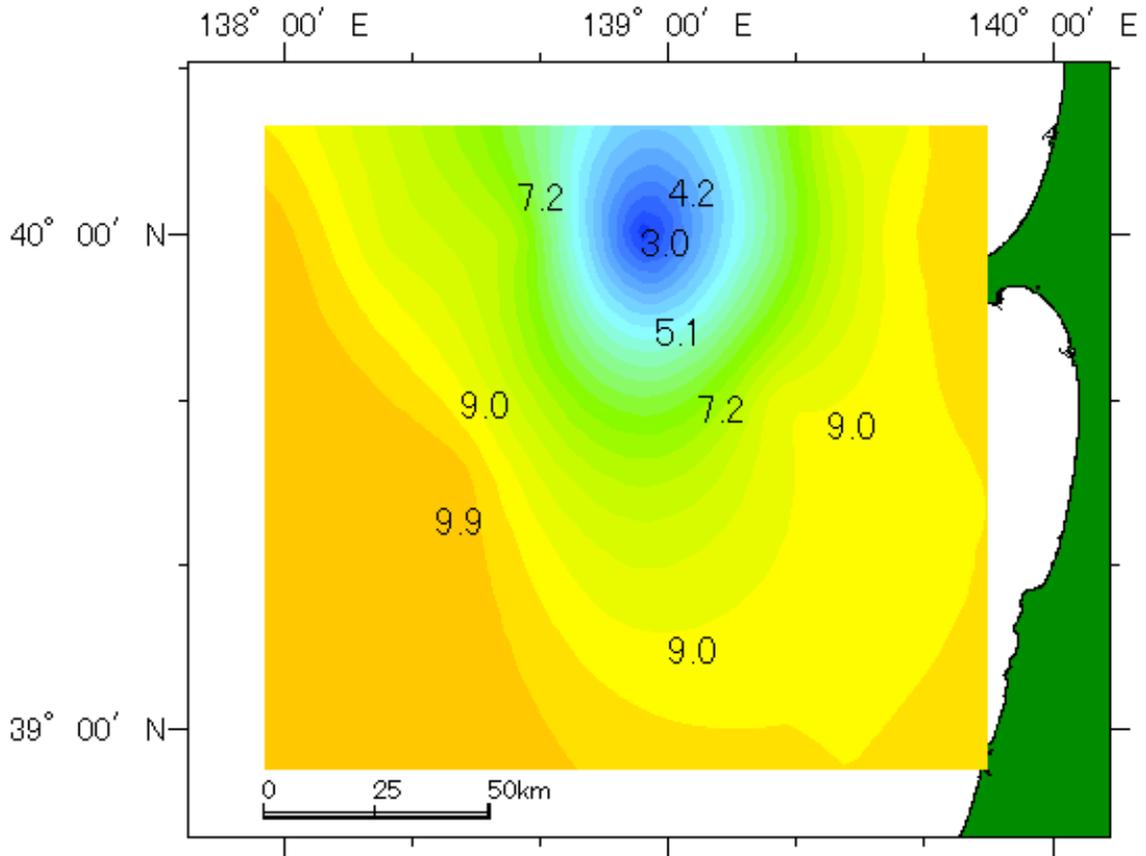


図6 水深100m層の水温分布

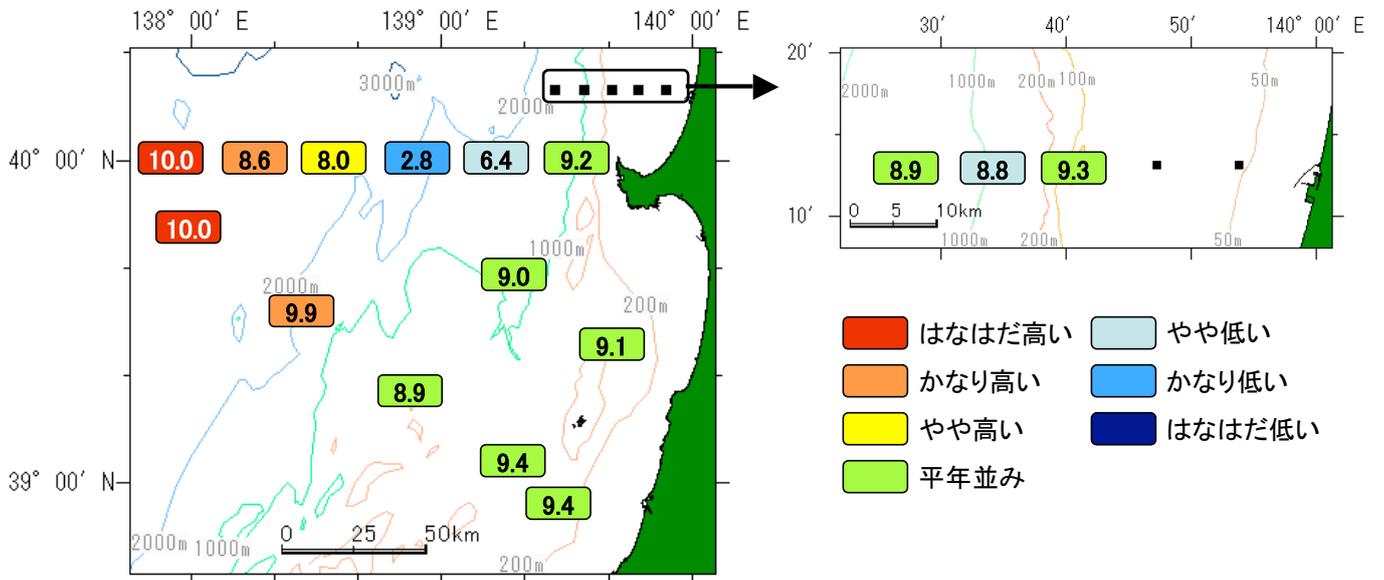


図7 水深100m層における水温の評価と観測値(°C)

<200m層>

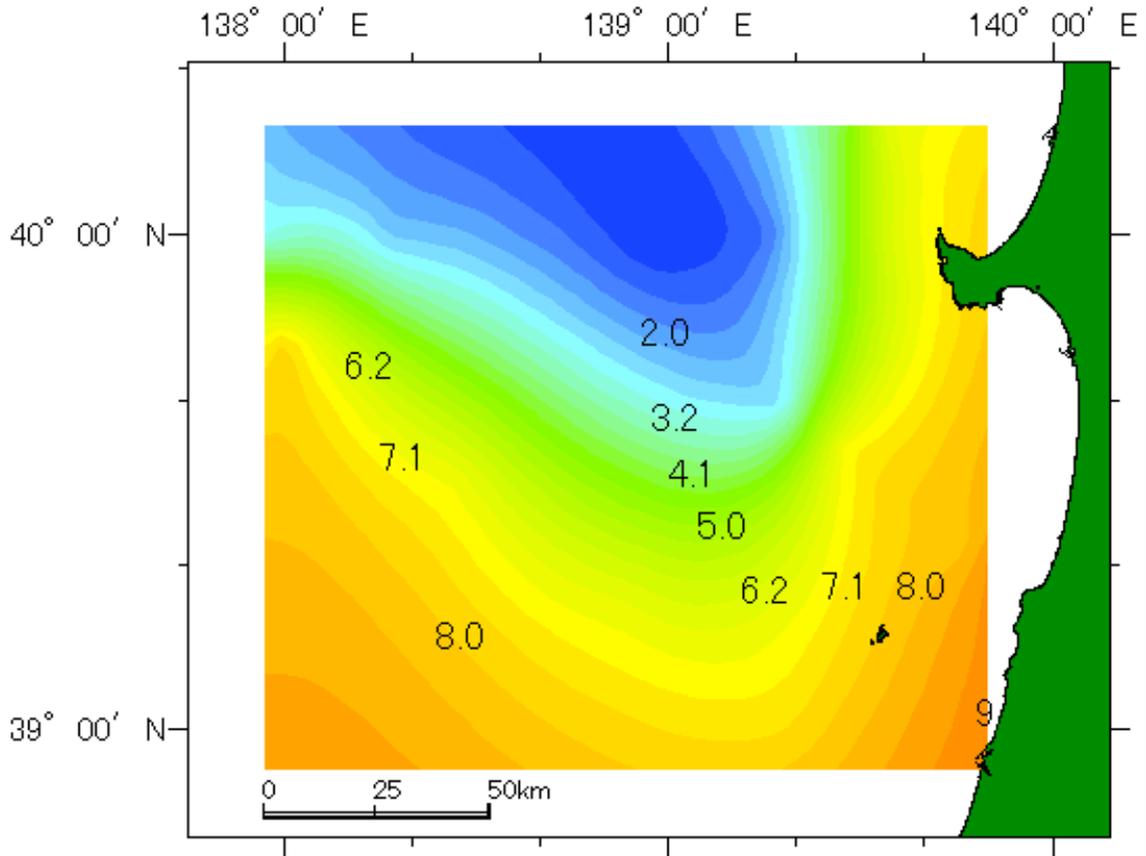


図8 水深200m層の水温分布

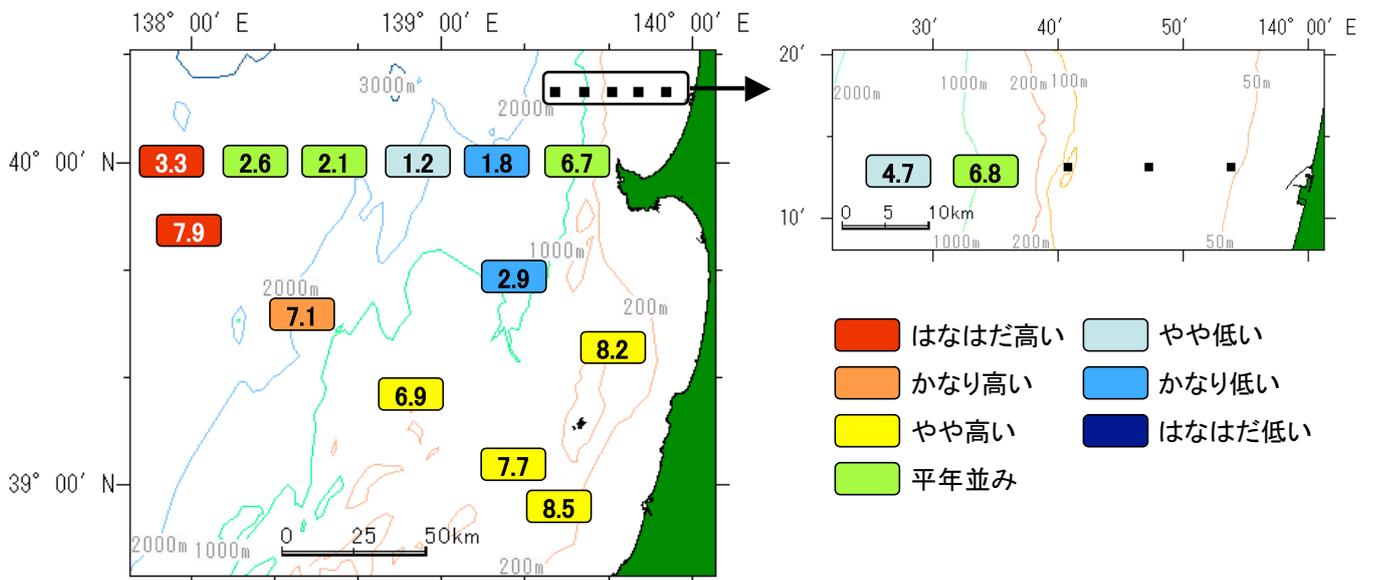


図9 水深200m層における水温の評価と観測値(°C)

秋田県沖合域の水溫状況 (平成24年6月)

漁業調査指導船「千秋丸」と沿岸調査船「第二千秋丸」が5月31日～6月5日にかけて行った水溫の観測結果は、次のとおりです。

- 表層(2ページ) 能代市の沿岸域(St. 21)で、「はなはだ高い」水溫です。
- 50m層(3ページ) 男鹿半島西方(St. 3)に、「はなはだ低い」水溫の冷水域がみられます。
- 100m層(4ページ) 男鹿半島西方(St. 3)に、「かなり低い」水溫の冷水域がみられます。一方、この沖合のSt. 5～7では、「はなはだ高い」水溫です。
- 200m層(5ページ) 男鹿半島西方(St. 2～4)に、広く冷水域がみられます。一方、この沖合のSt. 5～7では、「はなはだ高い」水溫となっています。

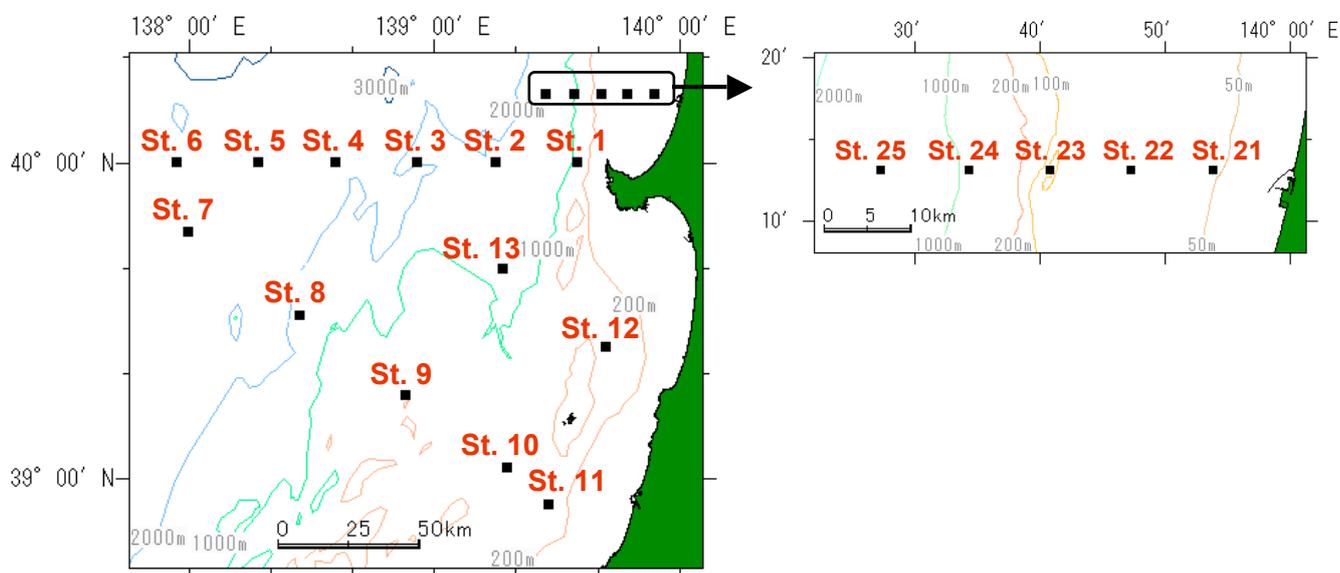


図1 調査船千秋丸及び第二千秋丸による観測定点(St. 1～13; 千秋丸、21～25; 第二千秋丸)

表1 水溫の評価方法

評価	偏差*	
■ はなはだ高い	+200以上	(出現確率: 約20年以上に1回)
■ かなり高い	+131～200	(出現確率: 約10年に1回)
■ やや高い	+61～131	(出現確率: 約4年に1回)
■ 平年並み	±60以内	(出現確率: 約2年に1回)
■ やや低い	-61～131	(出現確率: 約4年に1回)
■ かなり低い	-131～200	(出現確率: 約10年に1回)
■ はなはだ低い	-200以下	(出現確率: 約20年以上に1回)

* 偏差=(今月の観測値-平年値)÷標準偏差×100
平年値: St. 1～13が1971～2000年まで、21～25が1978～2000年までの平均値

<表層>

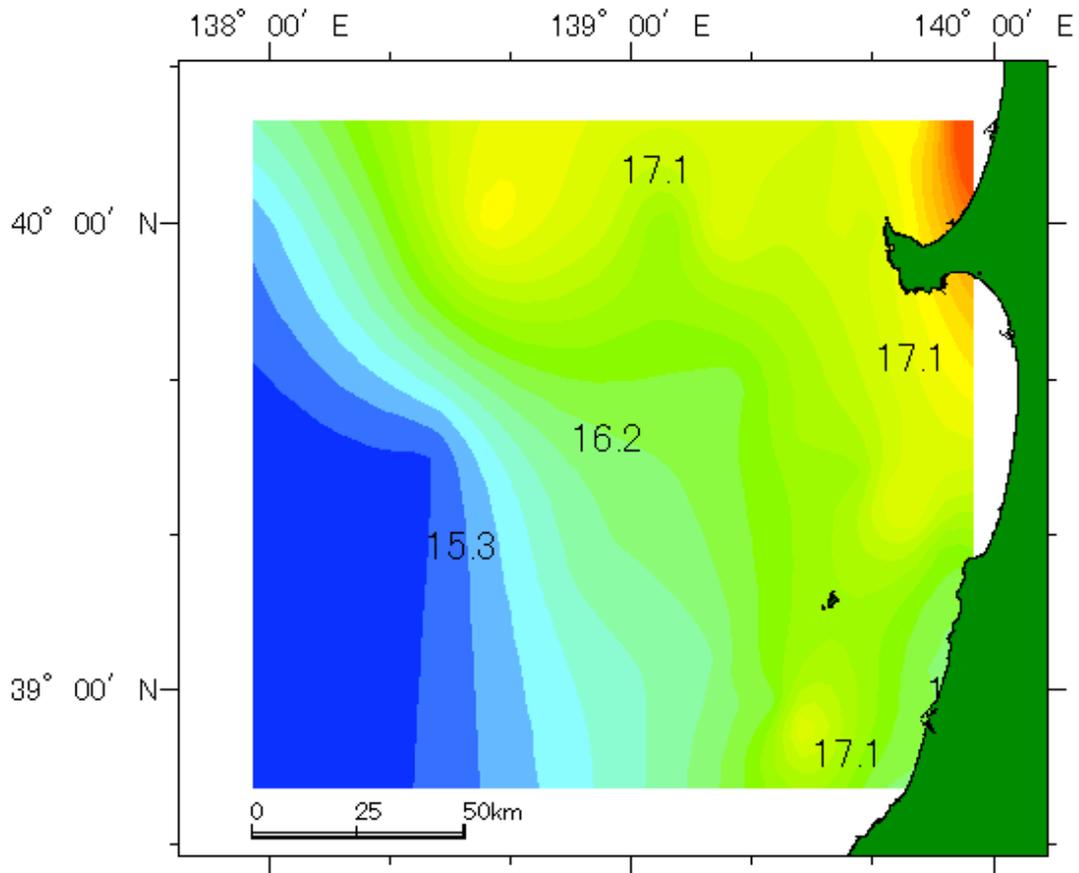


図2 表層の水温分布

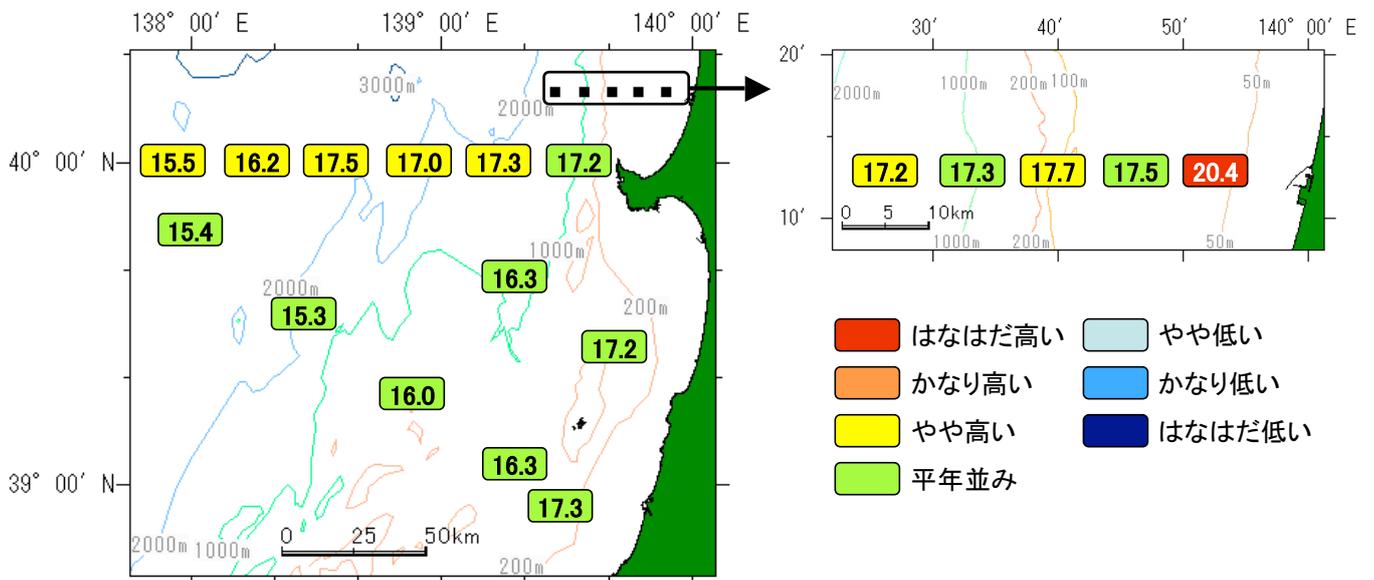


図3 表層における水温の評価と観測値(°C)

<50m層>

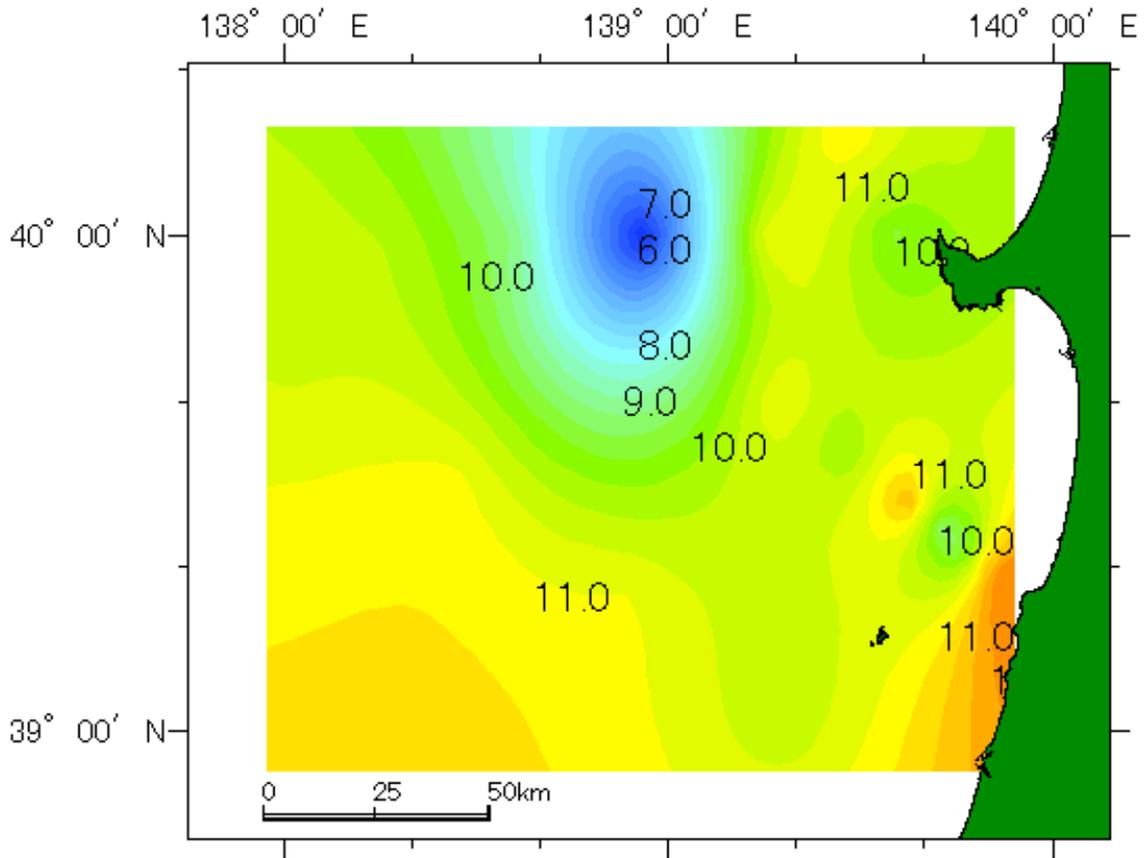


図4 水深50m層の水温分布

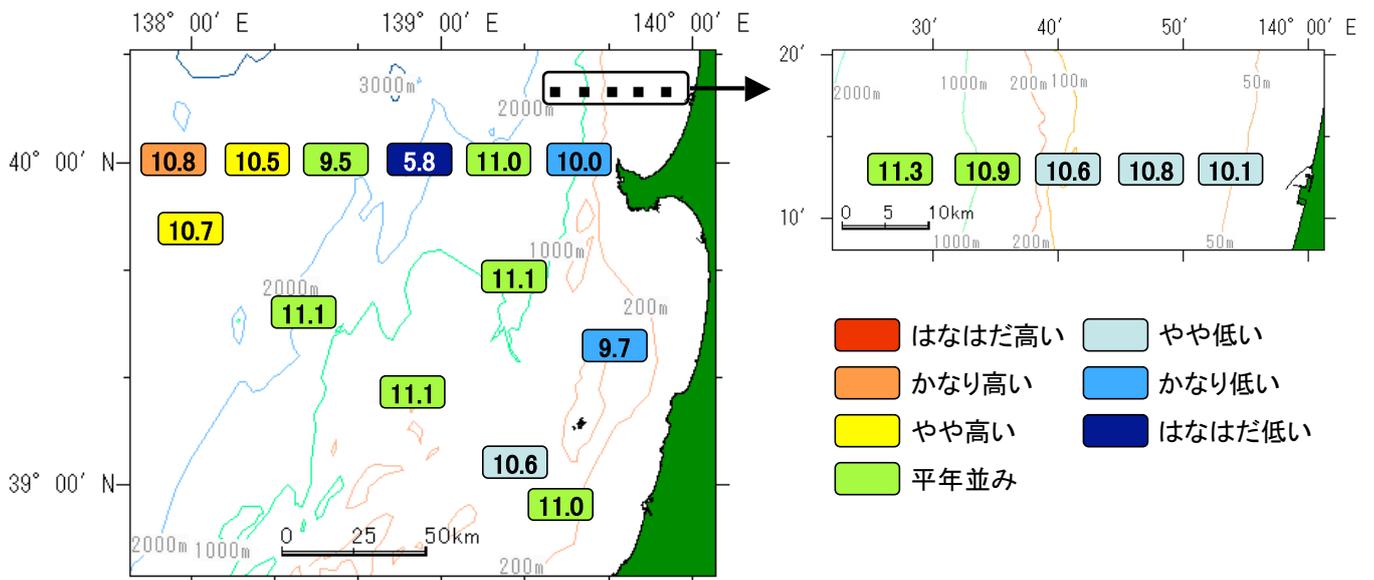


図5 水深50m層における水温の評価と観測値(°C)

<100m層>

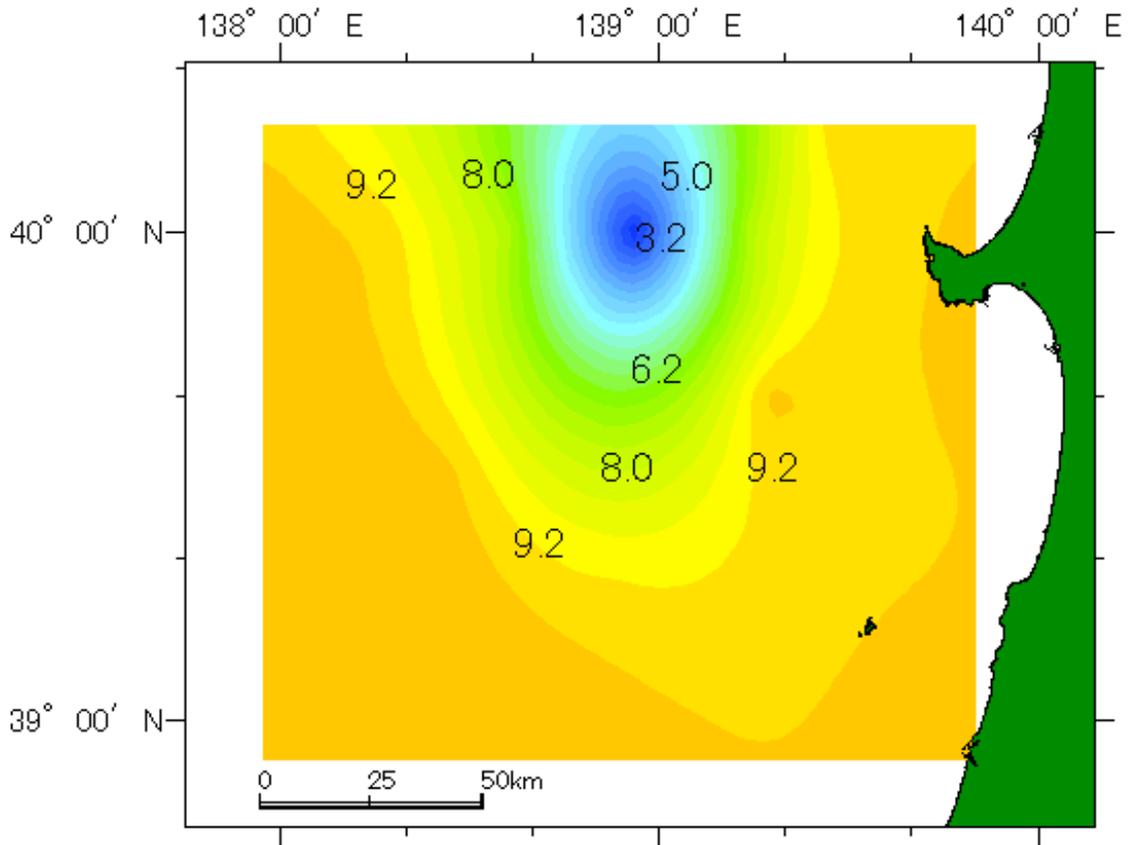


図6 水深100m層の水温分布

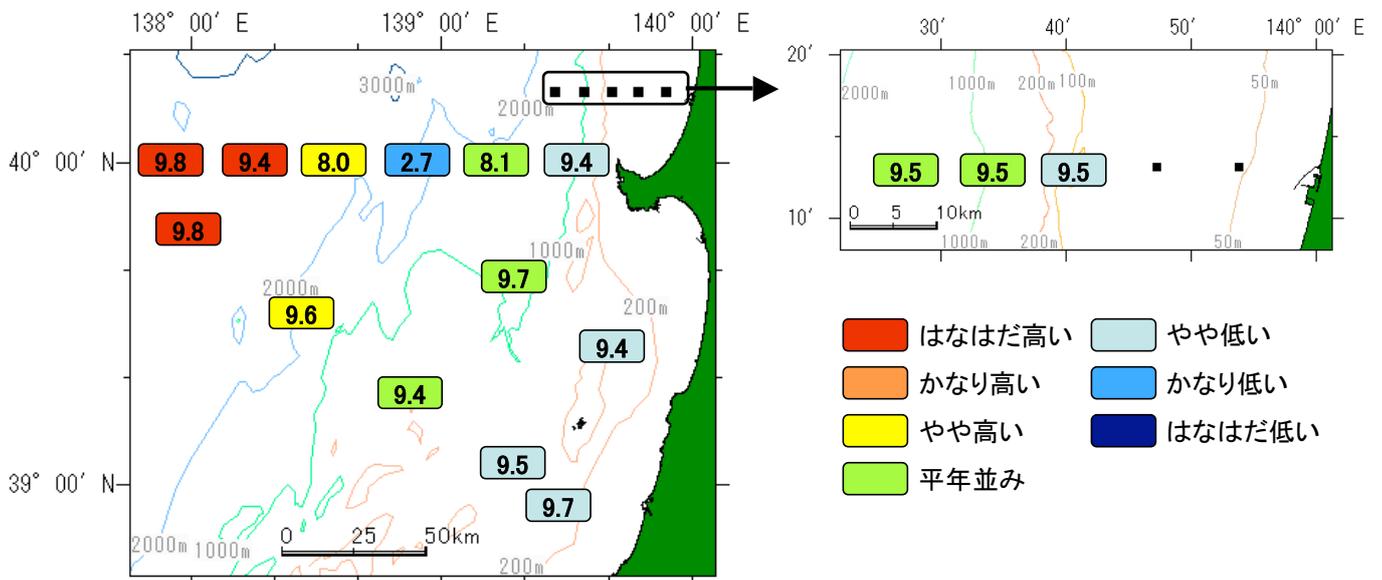


図7 水深100m層における水温の評価と観測値(°C)

<200m層>

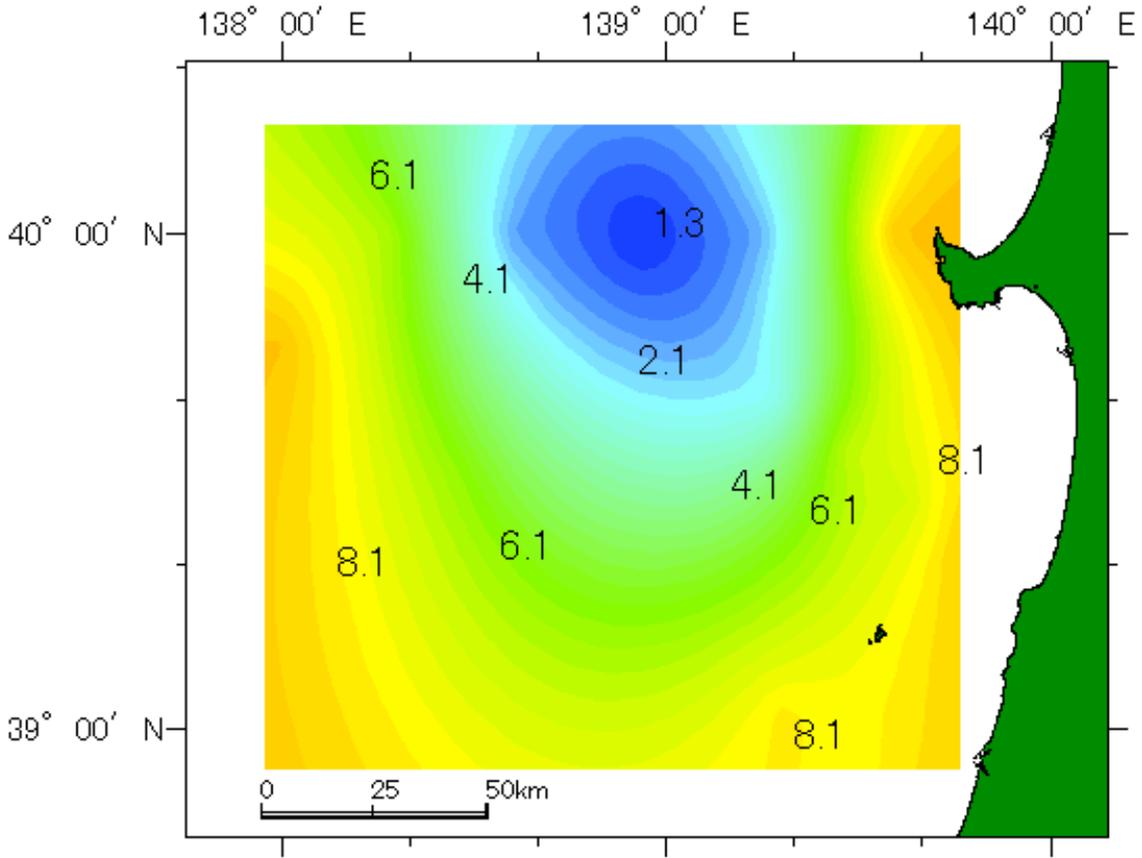


図8 水深200m層の水温分布

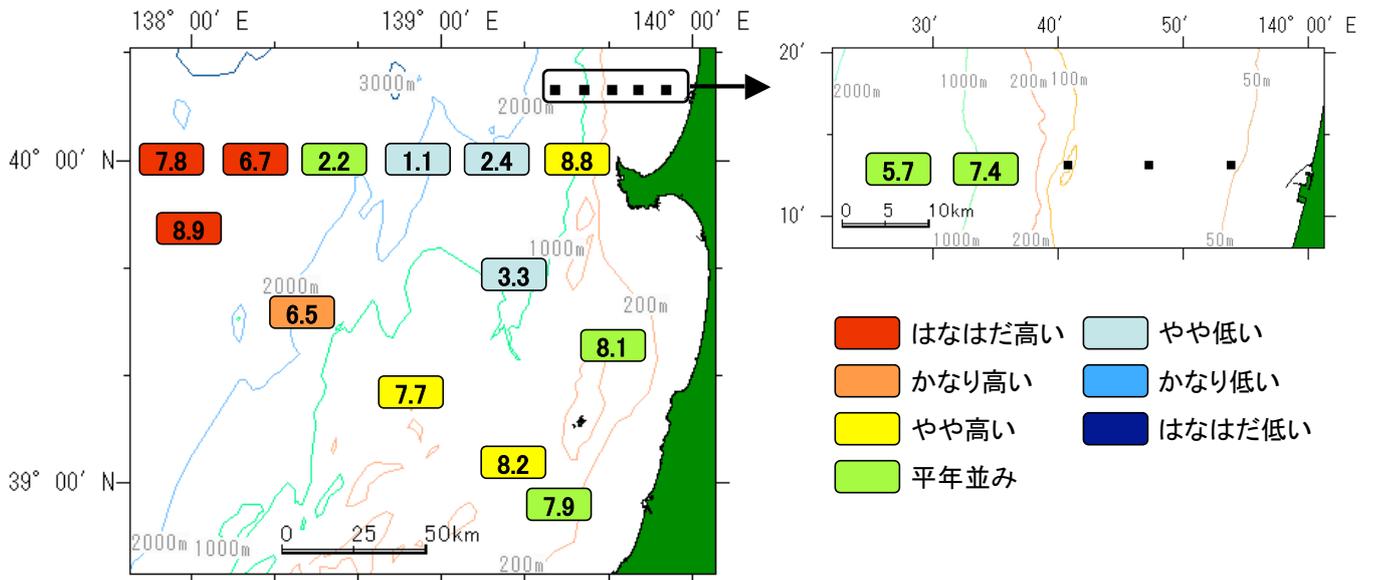


図9 水深200m層における水温の評価と観測値(°C)

秋田県沖合域の水溫状況 (平成25年2月)

漁業調査指導船「千秋丸」により1月31日～2月1日に行った水温の観測結果は、次のとおりです。

- 表 層(2ページ) 全体的に「平年並み」～「やや高い」水温となっています。
- 50 m層(3ページ) 全体的に「平年並み」～「やや高い」水温となっています。
- 100m層(4ページ) 男鹿半島西方沖合のSt. 4付近に、冷水域がみられます。一方、このさらに沖合のSt. 6、7では、「はなはだ高い」水温となっています。
- 200m層(5ページ) 男鹿半島西方沖合(St. 2、3)～にかほ市沖合(St. 8)にかけて、広く冷水域がみられます。一方、男鹿半島西方沖合のSt. 5、6では「はなはだ高い」水温となっています。

。

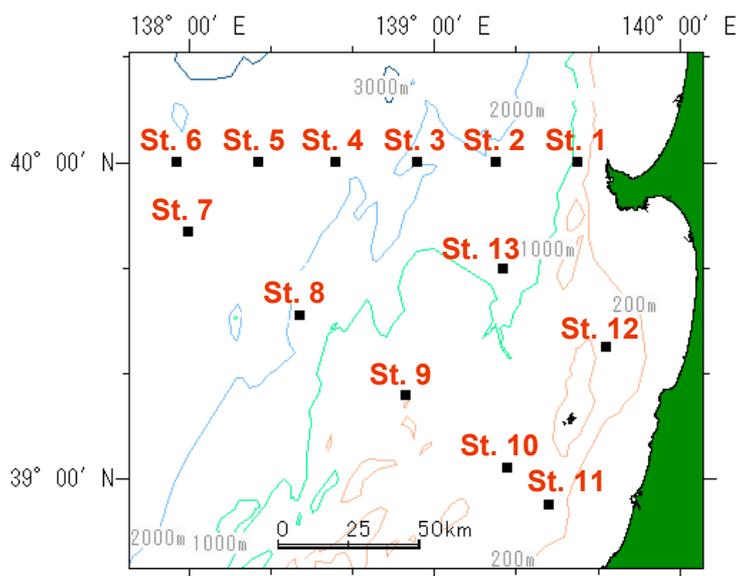


図1 調査船千秋丸による観測定点(St. 1～13)

表1 水温の評価方法

評価	偏差*	
■ はなはだ高い	+200以上	(出現確率:約20年以上に1回)
■ かなり高い	+131～200	(出現確率:約10年に1回)
■ やや高い	+ 61～131	(出現確率:約4年に1回)
■ 平年並み	± 60以内	(出現確率:約2年に1回)
■ やや低い	- 61～131	(出現確率:約4年に1回)
■ かなり低い	-131～200	(出現確率:約10年に1回)
■ はなはだ低い	-200以下	(出現確率:約20年以上に1回)

* 偏差=(今月の観測値-平年値)÷標準偏差×100
平年値:1971～2000年までの平均値

< 表層 >

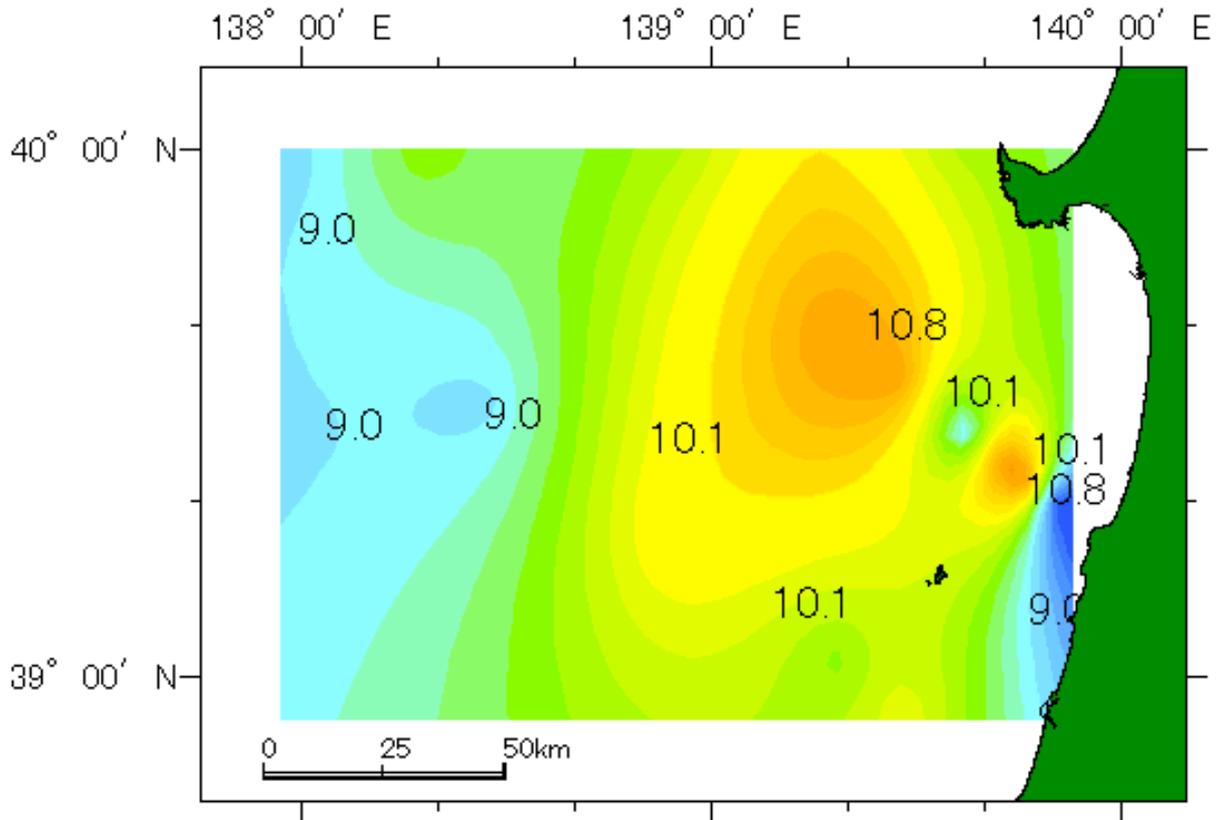


図2 表層の水温分布

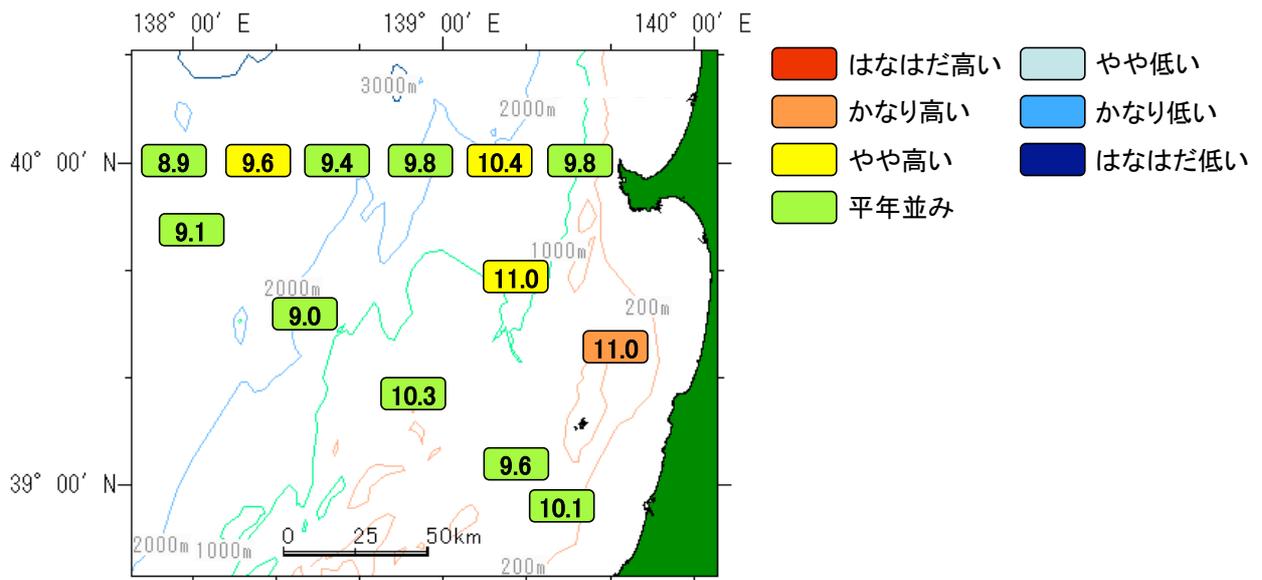


図3 表層における水温の評価と観測値(°C)

<50m層>

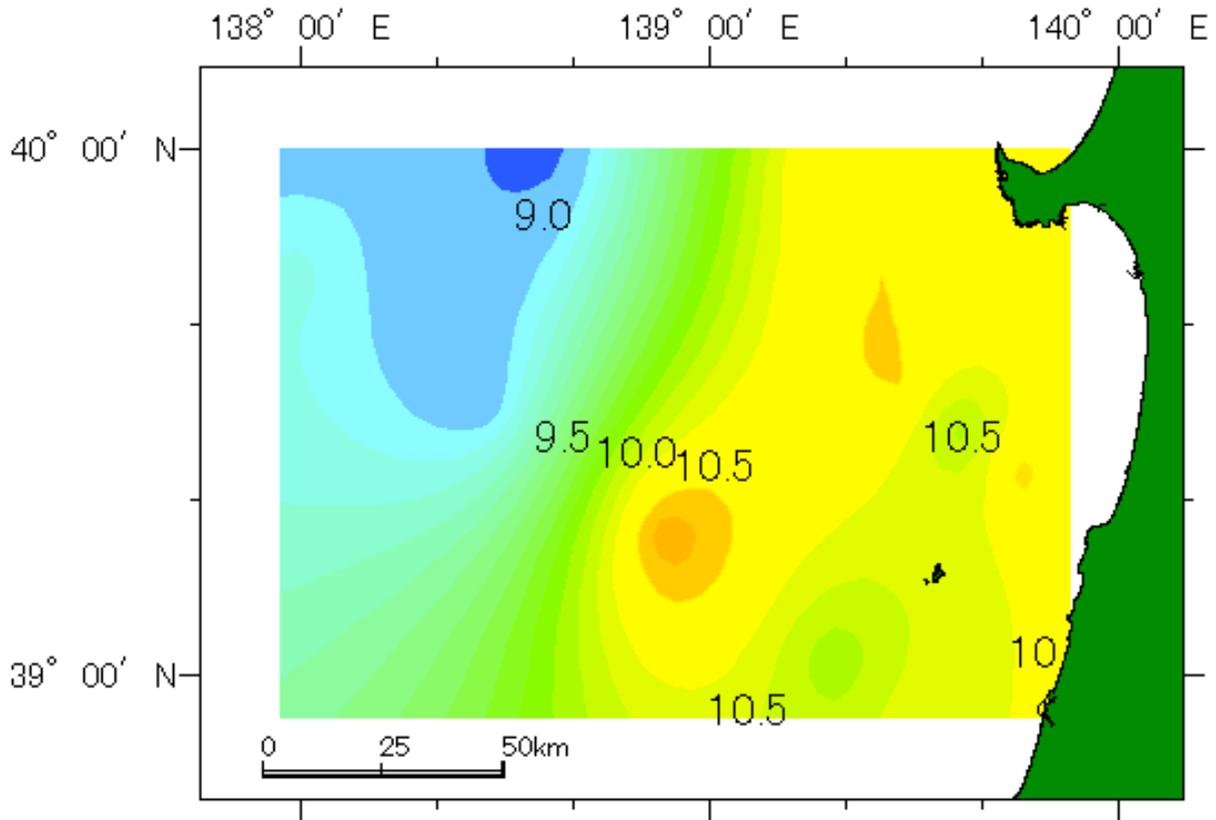


図4 水深50m層の水温分布

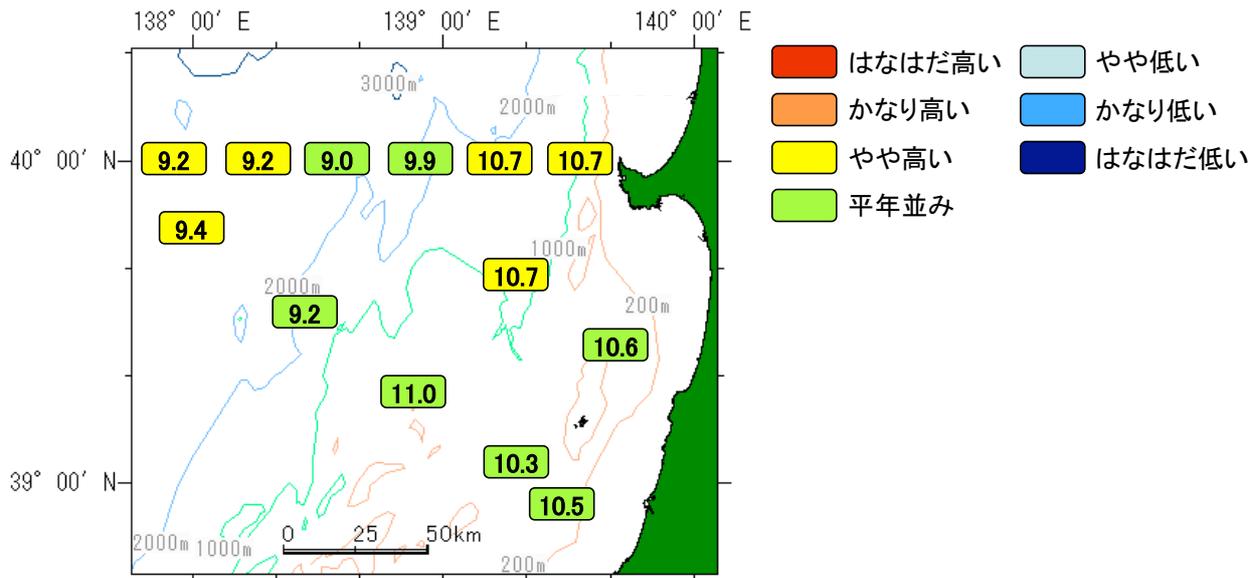


図5 水深50m層における水温の評価と観測値(°C)

<100m層>

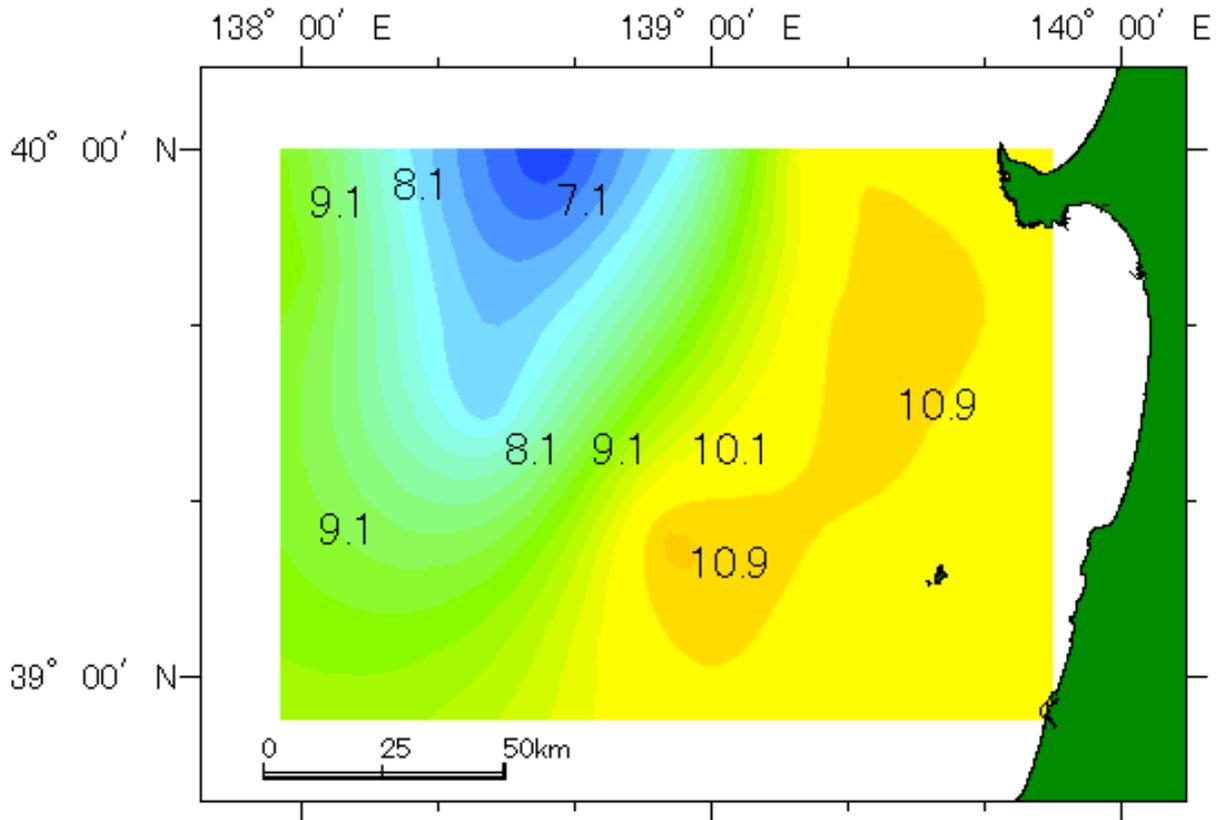


図6 水深100m層の水温分布

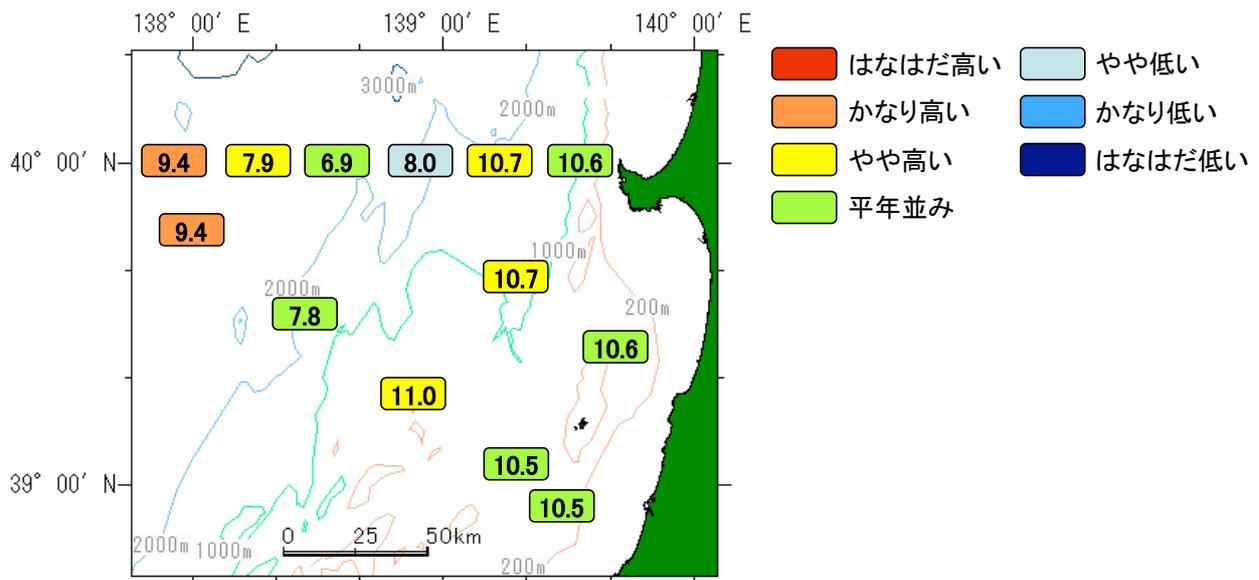


図7 水深100m層における水温の評価と観測値(°C)

<200m層>

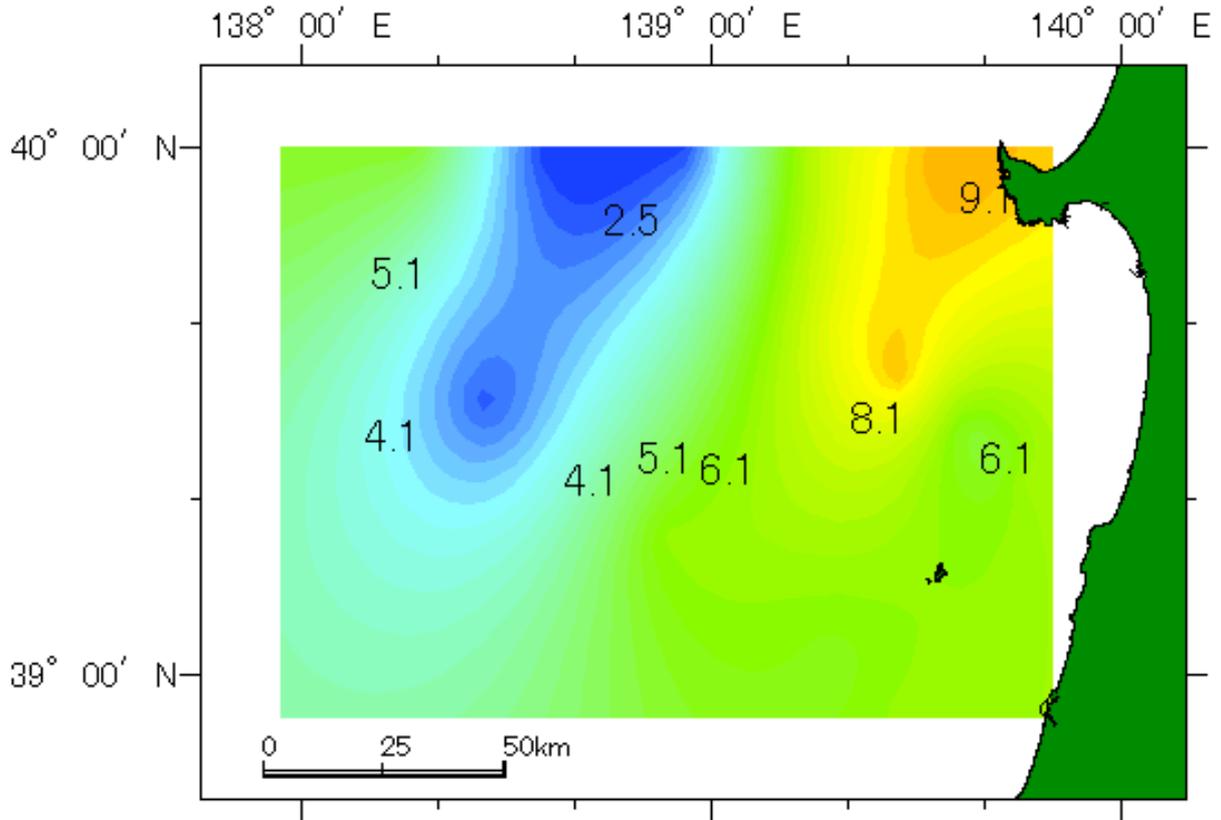


図8 水深200m層の水温分布

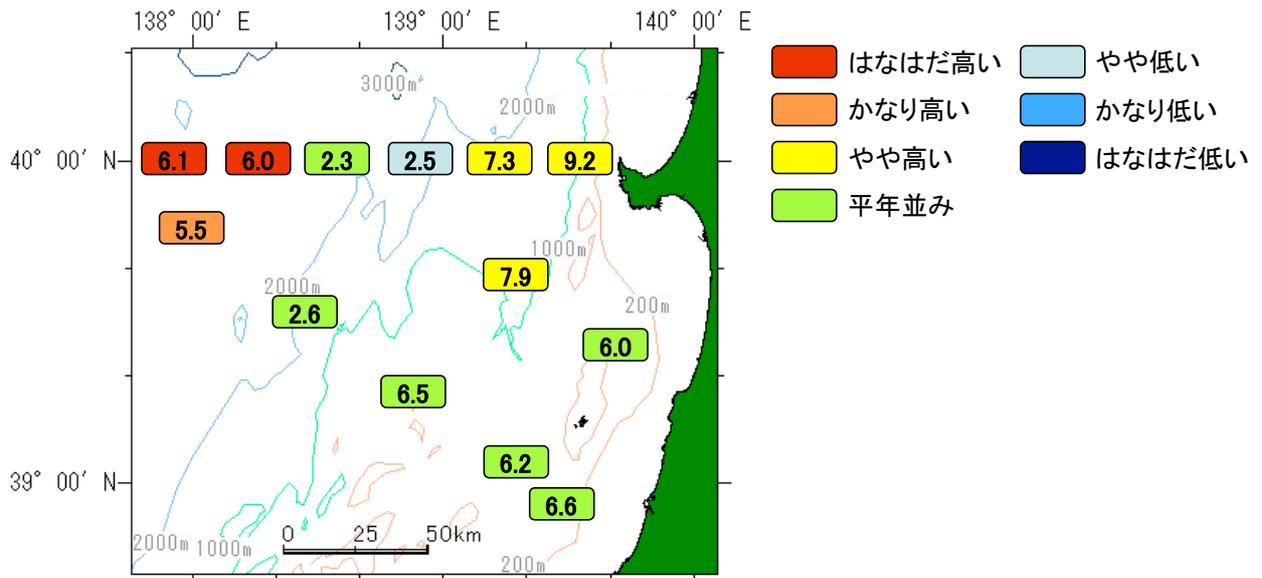


図9 水深200m層における水温の評価と観測値(°C)

<300m層>

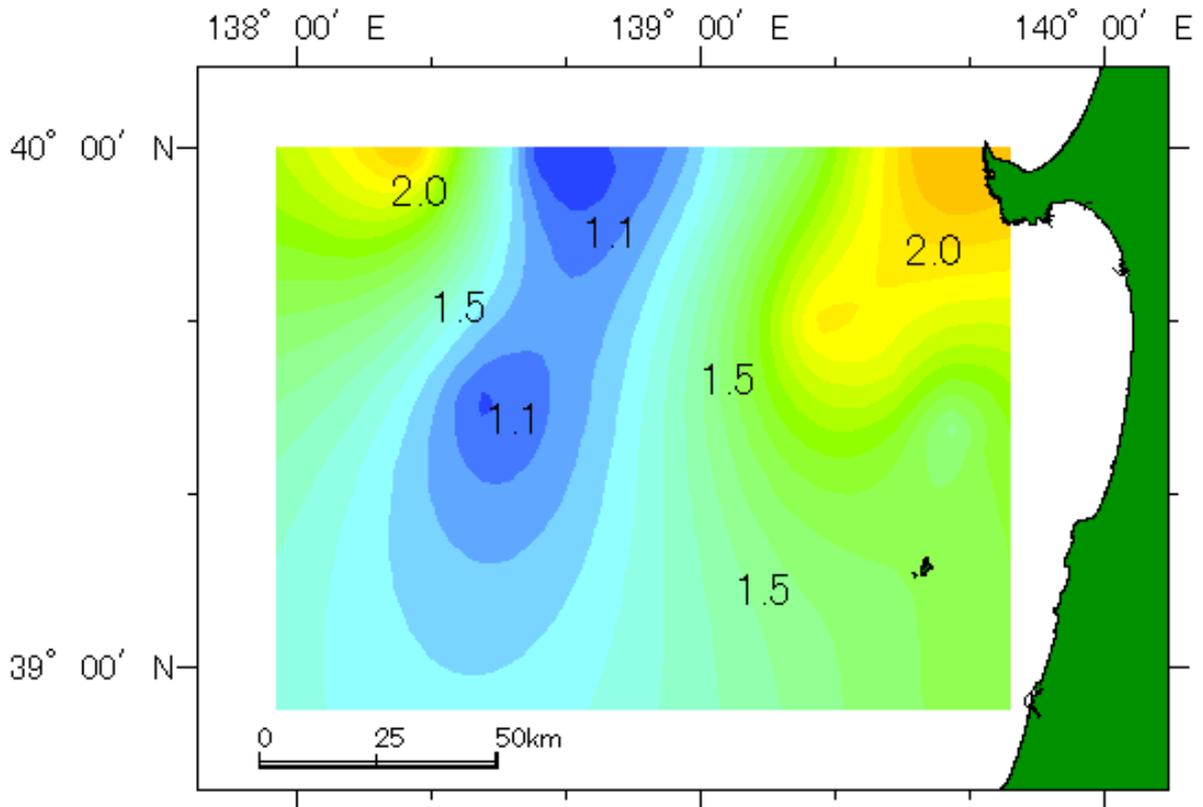


図 水深300m層の水温分布

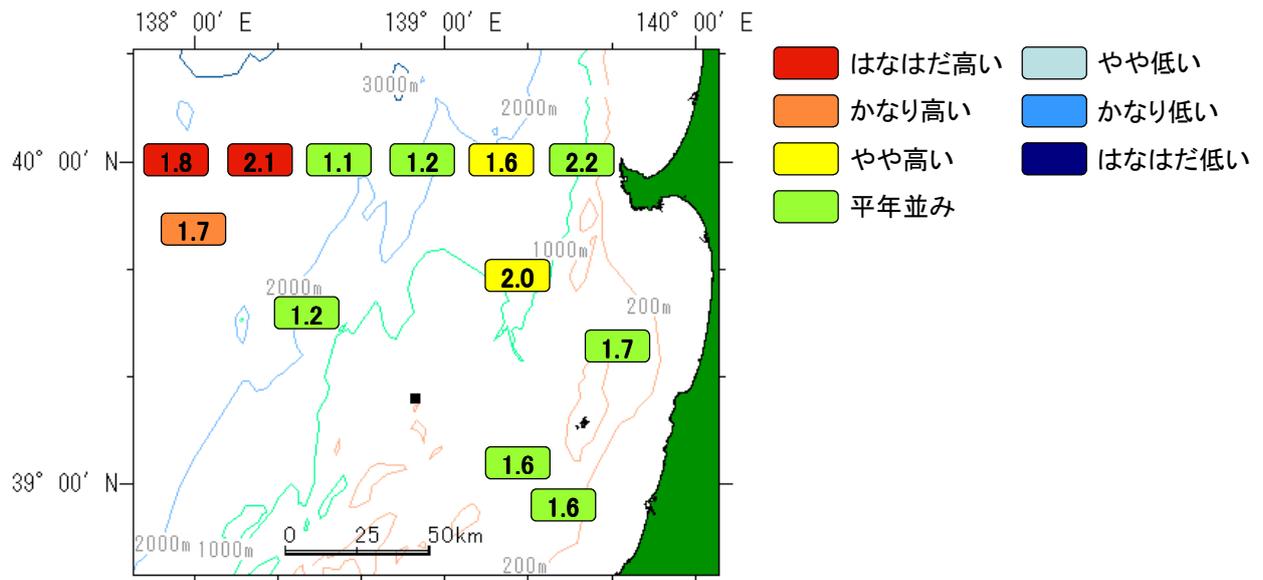


図9 水深300m層における水温の評価と観測値(°C)

秋田県沖合域の水溫状況 (平成25年3月)

漁業調査指導船「千秋丸」により、2月27日～28日に行った水溫の観測結果は次のとおりです。

- 表層(2ページ) にかほ市沖のSt. 12で、「はなはだ低い」水溫となっています。
- 50m層(3ページ) 男鹿半島西方沖合のSt. 5で「かなり高い」水溫、その周辺のSt. 3、4及び6～8では「やや高い」水溫となっています。
- 100m層(4ページ) 男鹿半島西方のSt. 1で、「かなり低い」水溫です。一方、この沖合のSt. 5～7では「かなり高い」水溫となっています。
- 200m層(5ページ) 男鹿半島西方沖合のSt. 4、5で、「はなはだ高い」水溫となっています。

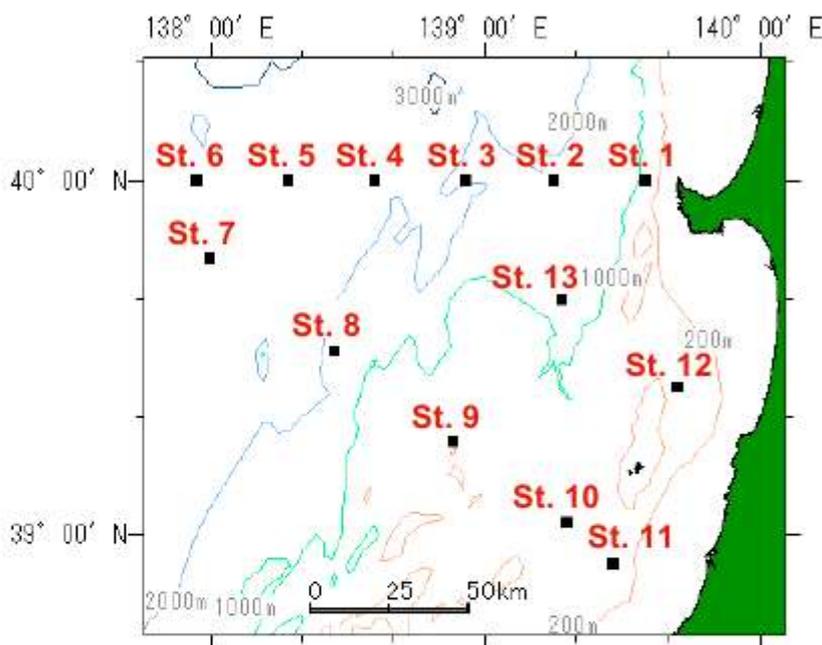


図1 調査船千秋丸による観測定点(St. 1～13)

表1 水溫の評価方法

評価	偏差*	
■ はなはだ高い	+200以上	(出現確率:約20年以上に1回)
■ かなり高い	+131～200	(出現確率:約10年に1回)
■ やや高い	+61～131	(出現確率:約4年に1回)
■ 平年並み	±60以内	(出現確率:約2年に1回)
■ やや低い	-61～131	(出現確率:約4年に1回)
■ かなり低い	-131～200	(出現確率:約10年に1回)
■ はなはだ低い	-200以下	(出現確率:約20年以上に1回)

* 偏差 = (今月の観測値 - 平年値) / 標準偏差 × 100
平年値: 1971～2000年までの平均値

<表層>

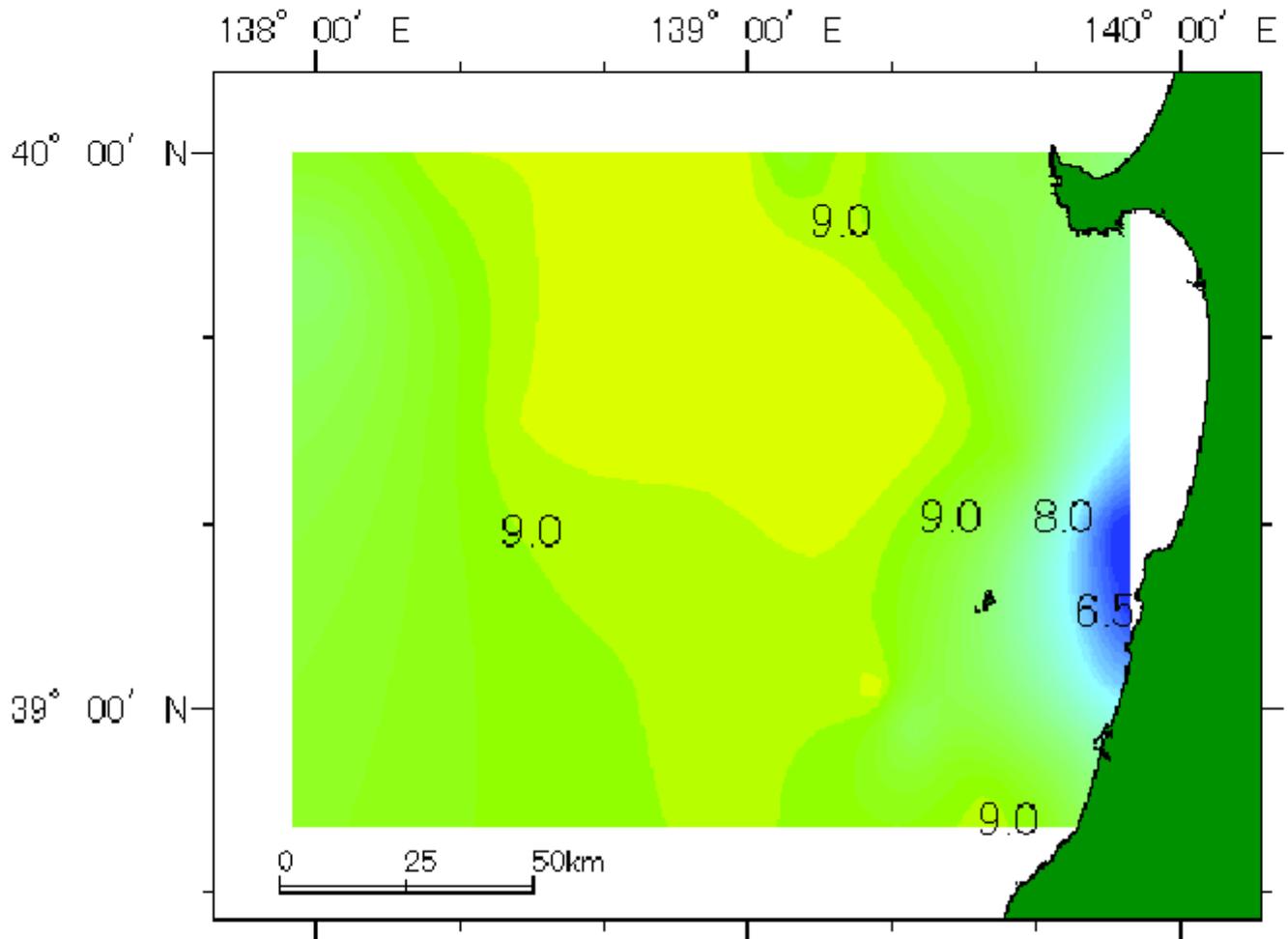


図2 表層の水温分布

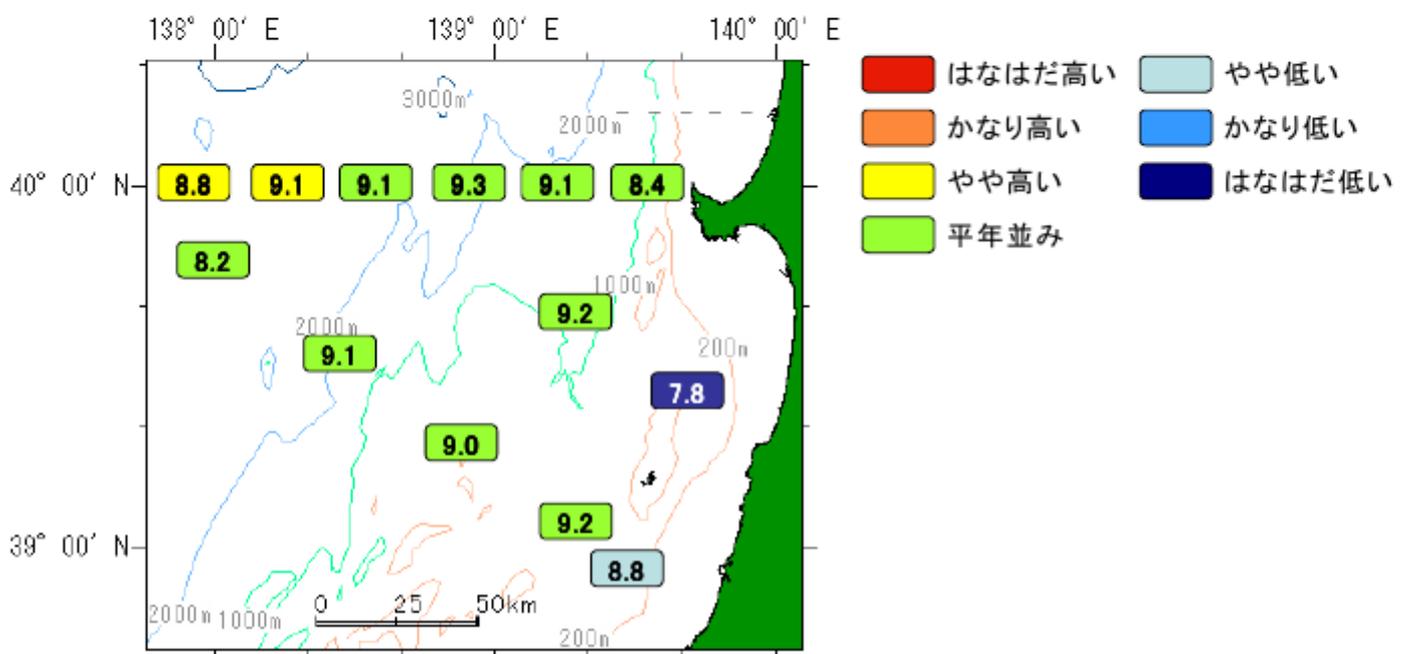


図3 表層における水温の評価と観測値(°C)

< 50m層 >

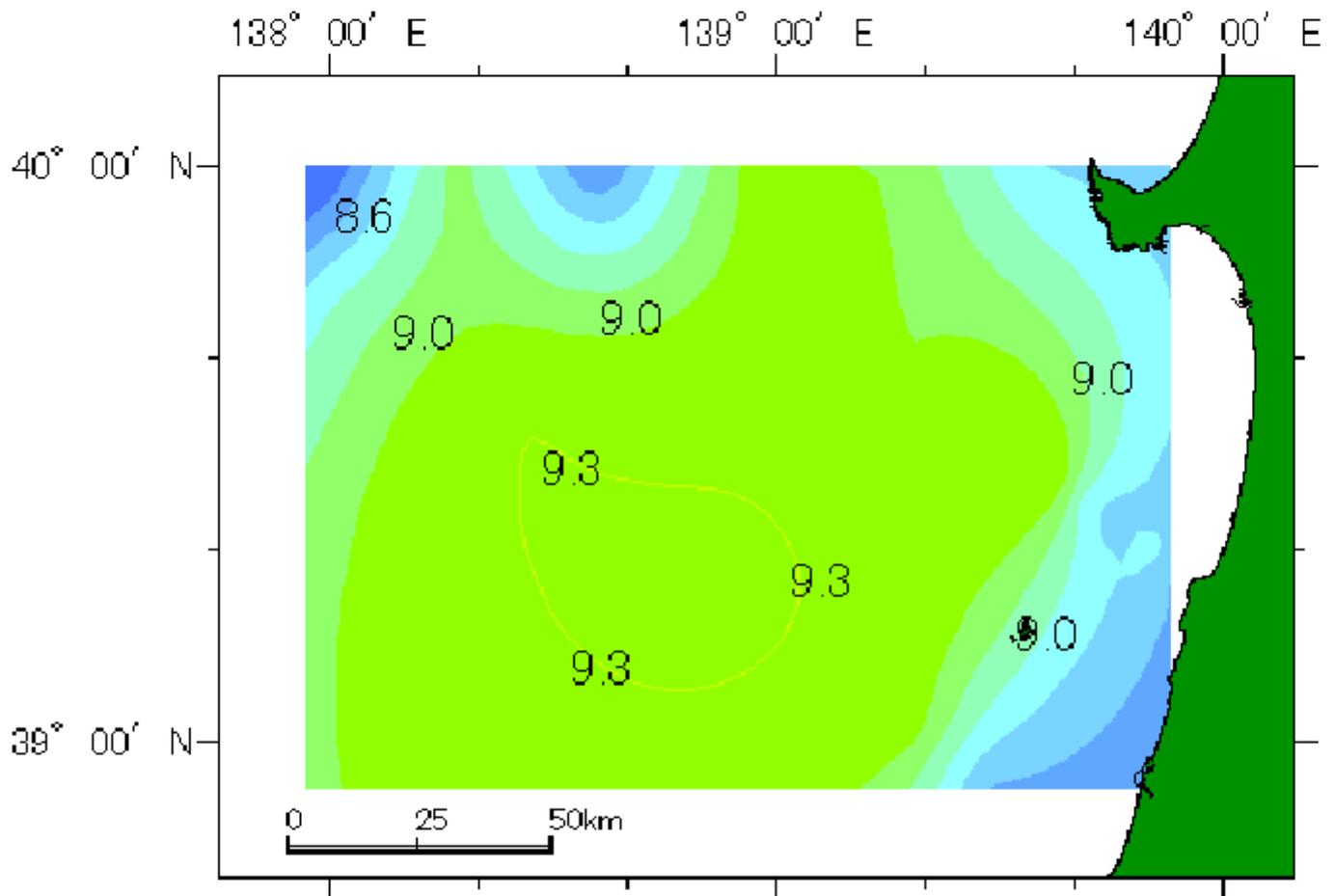


図4 水深50m層の水温分布

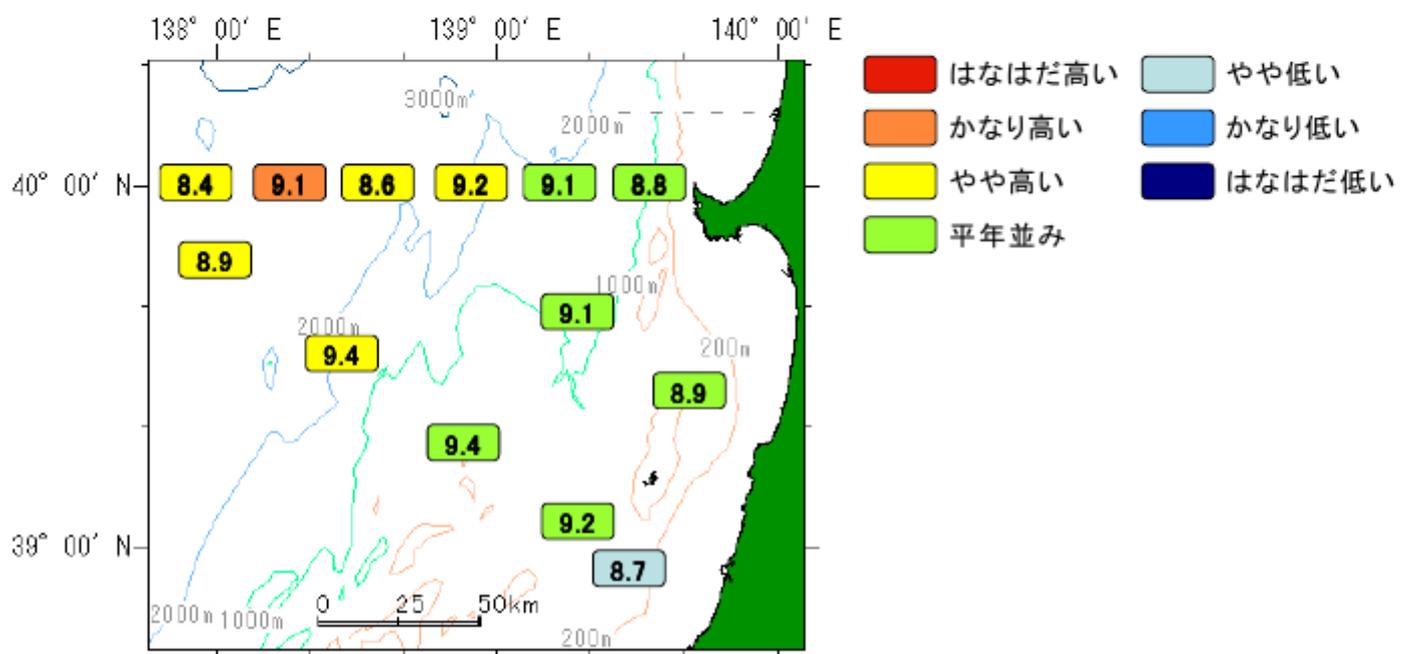


図5 水深50m層における水温の評価と観測値(°C)

<100m層>

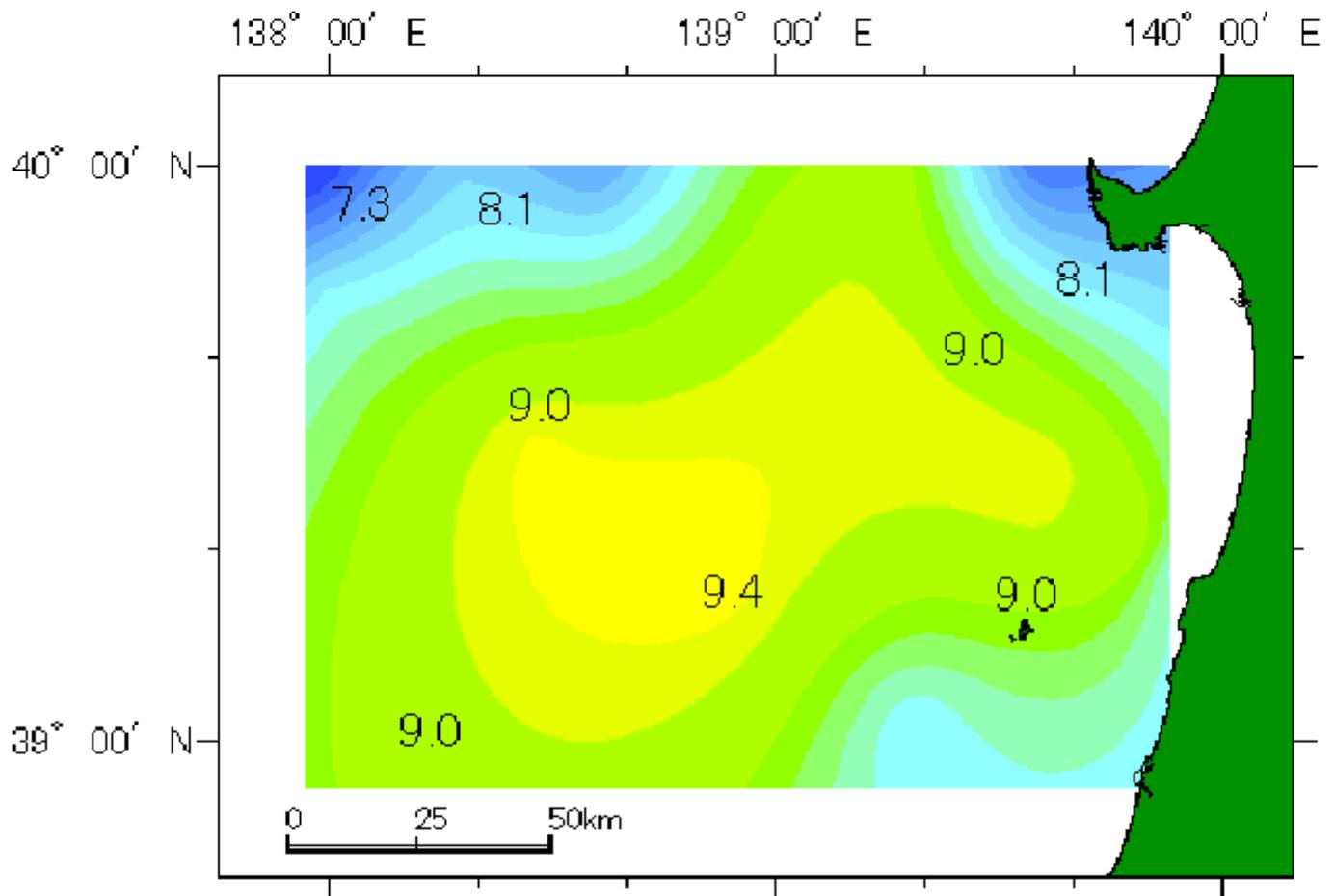


図6 水深100m層の水温分布

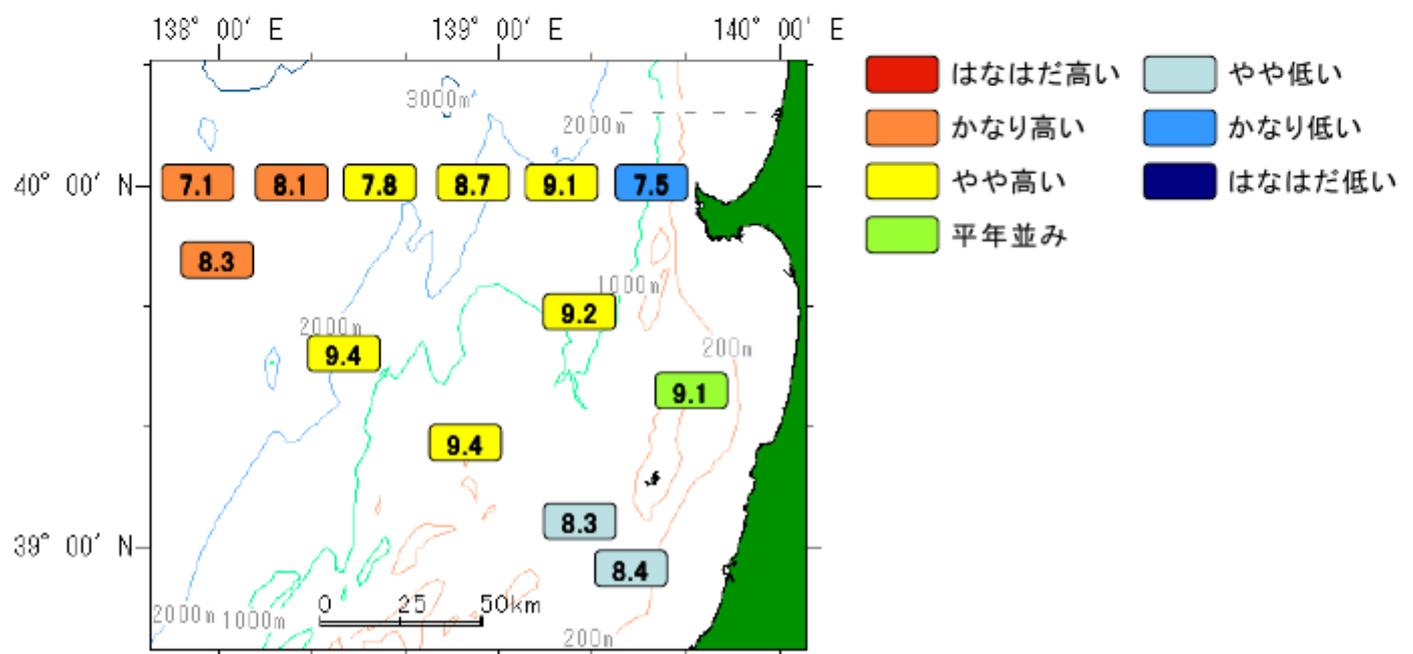


図7 水深100m層における水温の評価と観測値(°C)

<200m層>

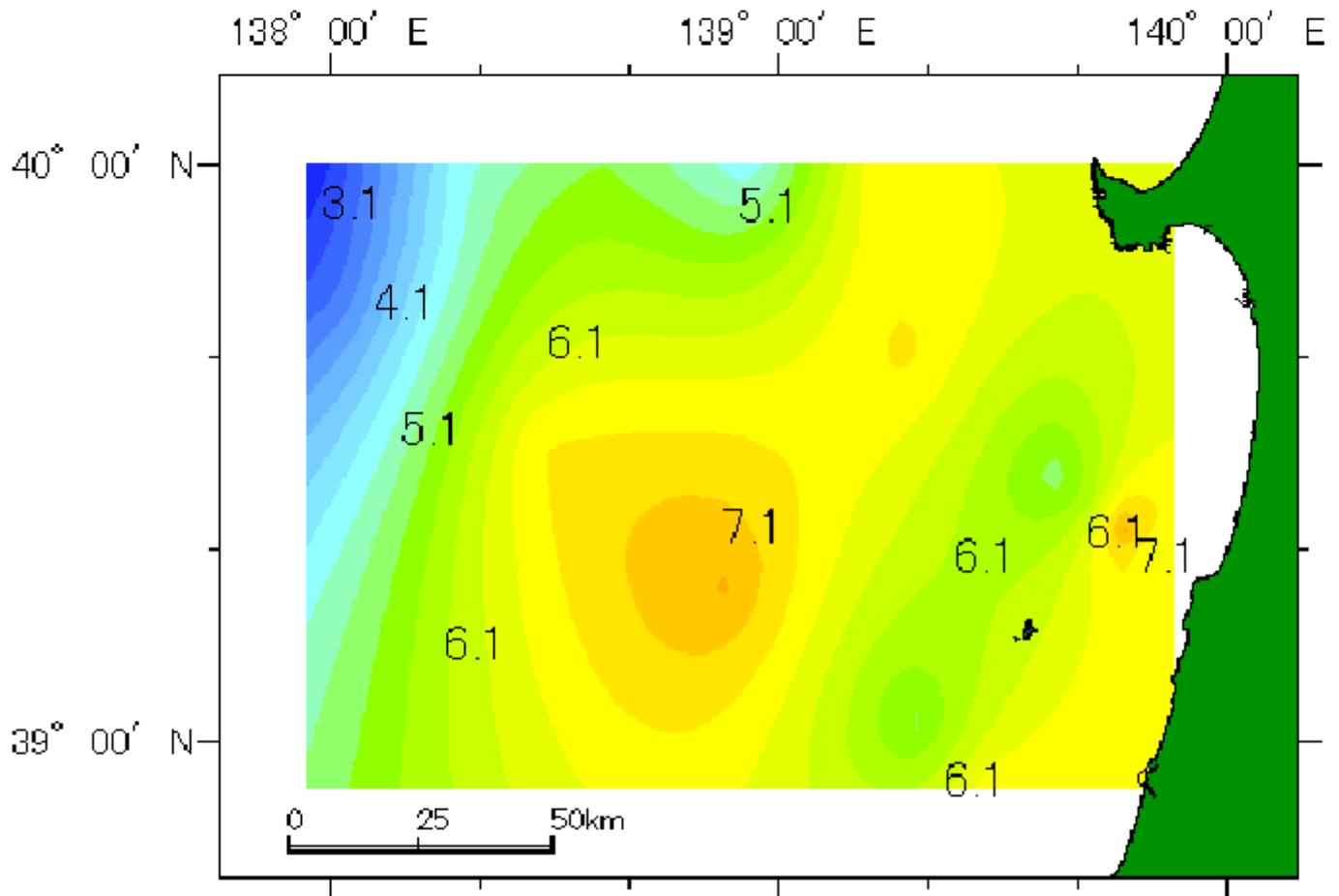


図8 水深200m層の水温分布

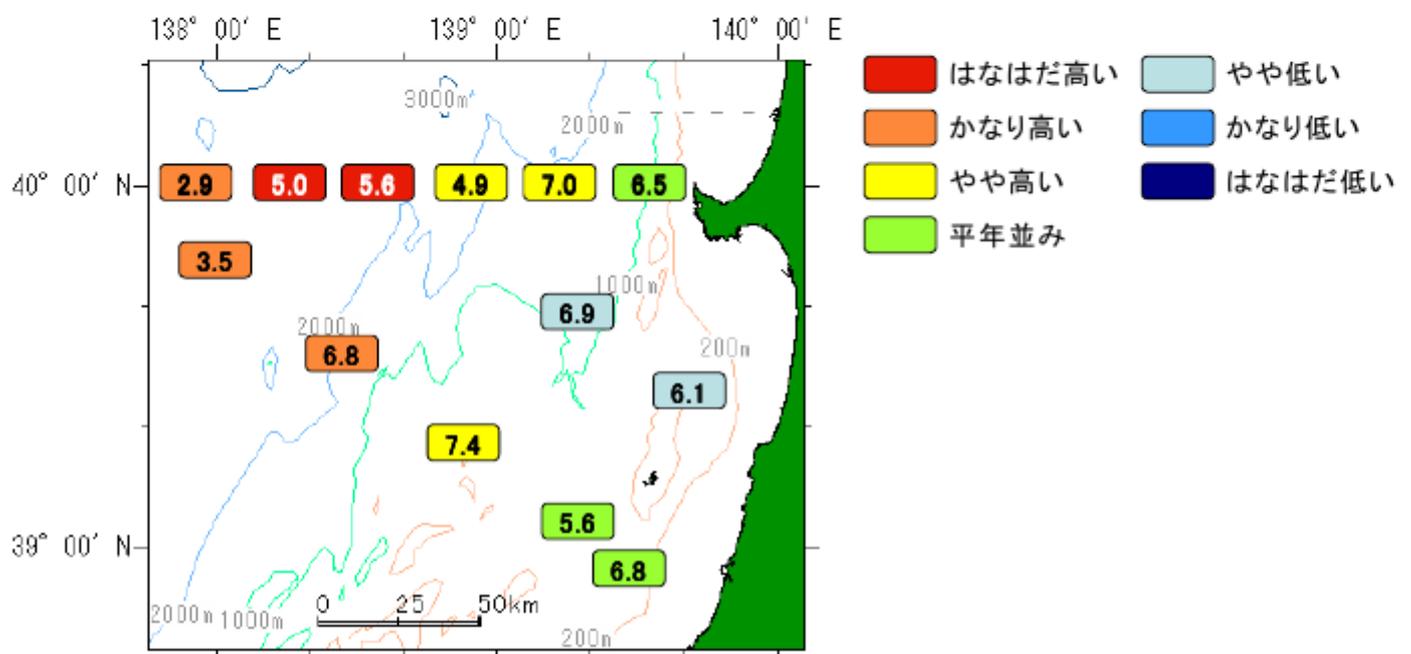


図9 水深200m層における水温の評価と観測値(°C)